

# 第1学年国語科学習指導案

第1学年 1組 2組 3組 4組  
指導者 竹内由布子 川原田麗香 吉永みどり 内藤由梨

## 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

1 単元名「おむすびころりんげきじょうをひらこう」  
教材名「おむすび ころりん」

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

場面の様子や登場人物の行動などから内容の大体を捉えることができるようにするとともに、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する力を養う。

(2) 観点別評価規準

| 評価の観点       | 知識・技能                                    | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度                                  |
|-------------|--|---|--|
| 単元の<br>評価規準 | ① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。            | ① 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。         | ① これまでの学習や知識を生かし、「おむすびころりん」の音読にすすんで取り組もうとしている。 |
|             | ② 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像を広げながら発表している。 | ② 場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像して、発表する場面や発表のしかたを選んでいる。 | ② これまでの学習を生かして、役割を決めて音読したり、演じたりしようとしている。       |

3 単元について

(1) 学習指導要領との関連

本単元は、学習指導要領内容「C読むこと」(1)イ「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。」ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」に関する内容について、構成したものである。

(2) 教材について

これまでの「はなのみち」や「おおきなかぶ」の物語文の学習で、挿絵や言葉を手掛かりに、登場人物の行動や気持ち、場面の様子の想像を広げる学習を行ってきた。

「おむすびころりん」は、文章全体が七音・五音で構成されており、自然に語のまとまりや文章のリズムを感じながら音読できる教材である。

本単元では、学習のまとめとして「おむすびころりん劇場」を行う。場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、動作化を考えることを通して、みんなで声をそろえて音読する楽しさを味わわせたい。第2時から第4時では語のまとまりや七五調のリズムに気を付けて読み、物語の内容の大体を捉える。文中の言葉に着目しながら友達と話し合いをすることで、音読や動作化に生かすことができるようにする。第五時からは、グループに分かれ、音読発表に向けて場面や役を選ん

だり、繰り返しの表現として出てくる、「おむすびころりんすつとんとん」のセリフの言い方や動作化について考えたりする。繰り返しの表現の面白さや声に出して表現する楽しさに気づき、すすんで音読発表の活動に取り組むことができるようにするために、発表する場面（横軸）に対して、「声の出し方・動き・リズム・つけたし」などの発表の工夫（縦軸）を自由に選ぶ形で話し合い活動を行う。

#### 4 児童について（学年）

これまでの物語文の学習において、「はなのみち」では、初めて音読発表の活動に取り組んだ。音読会に向けて発表の工夫を考える場面では、発表の工夫を具体的に想像することが難しい様子が課題として見られた。「おおきなかぶ」では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができた。発表する場面に対する発表の工夫では、他のグループの選んだ方法に関心を持ち、次回挑戦してみたいという積極的な気持ちが見られた。

「おむすびころりん」では、児童が主体的に場面や役を選択し、表現の工夫を考え、意欲的に音読発表に取り組むことができるような学習展開を目指していく。「はなのみち」や「おおきなかぶ」で友達の発表を聞いて関心をもった発表の工夫について、自分たちの思いや考えを表現することへの挑戦意欲が高まることができるように指導していく。

#### 5 研究主題に迫る具体的な手だて（わくわくポイント）

##### （1）単元のわくわくポイント

「見通す」段階において、「おおきなかぶ」の学習を振り返り、本単元で目指す課題を確かめることで、単元のめあてをもち意欲的に「おむすびころりん劇場」に挑戦することができるようにする。また「選択する」場面において、これまでの学習や知識を活かし、「グループで発表したい。」「好きなところを発表したい。」「動きを付けて音読したい。」等、児童の意見を尊重して「おむすびころりん劇場」の形式の選択肢を決めていくことで学習への関心意欲を高めることができるようにする。「ひらきたい『おむすびころりん劇場』!」という単元を通したわくわくポイントを設定することで、選択した取組に対して粘り強く挑戦し続けることができ、友達との関わりの中で協調性を育むことができると考えた。

##### （2）本時のわくわくポイント

3組：教員が自分の好きな昔話の一部分を演技しながら音読することで、児童が昔話に興味をもち、音読することに挑戦する意識をもつことができるようにする。

2組：発表する場面や工夫を児童自身が選べるようにすることで、自分たちの思いや考えを表現することへの挑戦意欲が高まるようにする。

1組：役に応じた声の出し方や動作を練習することで、チームでの協力を深められるようにする。

4組：児童自身が選んだ場面や方法で、チームの友達と協力して自分たちの思いや考えを表現することができるようにする。



7 本時の指導（3組：1／8時）**【見通す】** 選択する・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

これまでの音読の学習や、知っている昔話を思い出すことを通して、学習の見通しをもつことができる。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応   | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|------|---|---|
| 見通す  | <p>○今まで読んだ日本の昔話を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「浦島太郎」は、亀を助けたお礼に竜宮城に連れていってもらいます。帰りに玉手箱をもらいますが、約束を破って最後はおじいさんになります。</li> </ul> <p>○「おむすびころりん」はどんなお話なのか想像してから、教師の範読を聞く。</p> <p>○感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良いことをすると最後に幸せになります。</li> <li>・おむすびが転がるところが面白いです。</li> <li>・リズムがあって、歌みたいです。</li> </ul> <p>○「はなのみち」や「おおきなかぶ」での音読発表会を振り返り、学習のゴールに、「おむすびころりん劇場」を開くことを知る。</p> | <p>□事前に教室に「昔話コーナー」を設置しておいたり、日本の昔話の読み聞かせをしたりしておくことで、全く知らない児童がいないようにしておく。</p> <p>□場面ごとに様子が伝わるようにゆっくり読む。</p> <p>□感想を伝え合わせることで、「おむすびころりん」への興味を高めさせる。</p> <p>□「おおきなかぶ」や他の昔話と比べながら感想をもってもよいこととする。</p> <p>★単元のわくわくを提示し、児童が学習意欲を高めて挑戦する意識をもって取り組むことができるようにする。《挑戦》</p> |
|      | たんげんのめあて：ともだちに たのしんでもらえる「おむすびころりんげきじょう」をひらこう。   |   |
| 選択する | 本時のめあて：がくしゅうのけいかくをたてよう。   |   |
|      | <p>○「おむすびころりん劇場」に向けて、どのように学習を進めていったらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいさんの気持ちがわかるように、しっかり読んでいきたいです。</li> <li>・「おおきなかぶ」のときより、もっと動きを工夫してやってみたいです。</li> <li>・好きな場面と工夫の仕方を選びたいです。</li> <li>・発表の練習をしっかりやりたいです。</li> </ul>   | <p>□これまでの学習を生かすことを意識させる。</p> <p>◇これまでの学習や知識を生かし、「おむすびころりん」の音読に進んで取り組もうとしている。<br/>【主①（発言・観察）】</p>  |
| 振り返る | <p>○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいさんの気持ちをよく考えて、気持ちをこめて音読したい。</li> <li>・リズムにのって楽しく音読したいです。</li> <li>・友達に発表するのが楽しみです。</li> <li>・友達の発表も楽しみです。</li> </ul>  | <p>□単元のめあてと学習計画を振り返らせ、どんなことをやりたいか意欲を高めることができるようにする。</p>   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

7 本時の指導（2組：5／8時）【見通す・**選択する**・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

場面の様子や登場人物の行動などを踏まえて、自分たちで発表する場面や方法を話し合い、そのよさを考えながら選ぶことができる。

(2) 本時の展開

|             | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応   | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント  |   |   |   |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |
|-------------|---|--|---|---|---|---|---|-------------|---|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|------|---|---|---|---|---|---|
| 見通す         | <p>○本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     めあて：ばめんにぴったりのはっぴょうのくふうをえらぼう。                 </div> <p>○発表する場面(横軸)と発表の工夫(縦軸)の選択肢を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の学習でこんな工夫もありました。</li> <li>・前回他のグループがやっていた工夫に挑戦してみたいです。</li> </ul>  | <p>□学習の流れを確認することで、児童が見通しをもって、学習に取り組めるようにする。</p> <p>□発声練習の場を設けることで、児童が今まで学習したことを思い出せるようにする。</p> <p>□自分たちで選べることを強調し、わくわく感を引き出す。</p> <p>□黒板のマトリックスを用いて視覚的に整理する。</p>                 |   |   |   |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |
| 選択する        | <p>○場面ごとのグループで、どのように発表を工夫するか話し合い、発表の工夫(縦軸)を選ぶ。</p> <table border="1" style="margin: 10px 0;"> <tr> <td style="text-align: center;">まめん<br/>くふう</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">こえの<br/>だしかた</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">うごき</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">りずむ</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">つけたし</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </table> | まめん<br>くふう   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | こえの<br>だしかた | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | うごき | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | りずむ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | つけたし | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | <p>□発表する場面(横軸)に対して、「声の出し方・動き・リズム・台詞の付け足し」などの発表の工夫(縦軸)を自由に選ぶ形で話し合う。</p> <p>★発表する場面や工夫を児童自身を選べるようにすることで、自分たちの思いや考えを表現することへの挑戦意欲が高まるようにする。</p> <p>《挑戦》</p> |
| まめん<br>くふう  | 1   | 2  | 3 | 4 | 5 |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |
| こえの<br>だしかた | ○   | ○  | ○ | ○ | ○ |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |
| うごき         | ○   | ○  | ○ | ○ | ○ |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |
| りずむ         | ○   | ○  | ○ | ○ | ○ |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |
| つけたし        | ○   | ○  | ○ | ○ | ○ |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |
| 見直す         | <p>○場面ごとのグループで話し合った「発表の工夫」を全体に向けて簡単に共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2場面グループは、「動き」を工夫します。</li> <li>・3場面グループは「台詞の付け足し」を工夫します。</li> </ul> <p>○個人で「発表の工夫」を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの工夫は「動き」になったので、私は特におむすびが転がるときに、慌てた動きを付けて読みます。</li> </ul>  | <p>□伝え合いの場を通して、自分たちの発表への期待感を高められるようにする。</p> <p>□グループで決めた工夫を踏まえ、個人としての工夫を具体化することで次時の練習で意識して取り組めるようにする。</p> <p>◇場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像して、発表する場面や発表のしかたを選んでいる。【思・判・表②(発言・観察)】</p> |   |   |   |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |
| 振り返る        | <p>○本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習を生かして発表の工夫を選ぶことができました。</li> <li>・早く細かい内容を決めたり、練習したりしたいです。</li> </ul>   | <p>□本時の取り組み方を振り返り、次時に生かすことができるようにする。</p>   |   |   |   |   |   |             |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |     |   |   |   |   |   |      |   |   |   |   |   |   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

7 本時の指導（1組：7／8時）【見通す・選択する **見直す**・振り返る】

(1) 本時の目標

登場人物の行動や様子を捉え、想像を広げながら発表の仕方を考え、練習することができる。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント  |
|------|---|--|
| 見通す  | <p>○本時のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて：「おむすびころりんげきじょう」にむけて、グループでれんしゅうをしよう。</p> </div> <p>○発声練習をする。</p>  | <p>□学習の流れを確認することで、見通しをもって、学習に取り組めるようにする。</p> <p>□台詞と演技の基礎作りとして、体も動かしながら楽しく音読し、リズム感を養うようにする。</p>  |
| 選択する | <p>○第3、4時で話し合った、音読の仕方や動きを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「そろそろ おむすび たべようか。」は、おなかがすいたような動きをする。</li> <li>・「まて まて まて」は、びっくりした感じで音読する。</li> <li>・「これは これは おもしろい」は、わくわく楽しそうな表情で言う。</li> </ul> <p>○音読練習をする。(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいさんの言葉は、おじいさんになりきった声の出し方をしよう。</li> <li>・表情を大事に音読しよう。</li> <li>・動きを入れて読もう。</li> <li>・リズムに乗って歌うように読んだら、楽しそう。</li> <li>・声を合わせるところと一人で読むところを分けようよ。</li> <li>・「ねずみ」の出てくるところは、楽しそうに読もう。</li> <li>・台詞をつけたして、自分たちだけの劇を作ろう。</li> </ul> | <p>□びっくりしたときや、楽しいときの動きや声色を試し、アイデアを出し合うことができるようにする。</p> <p>□アイデアは肯定的に受け止めることで、子どもの主体性を引き出すようにする。</p> <p>□声の出し方を工夫したり、動作化したりすることで、場面の様子が伝わるようにさせる。</p> <p>□前時に選んだ発表の工夫を意識しながら練習することで、意欲的に活動できるようにする。</p> <p>★役に応じた声の出し方や、動きを練習することで、チームでの協力を深めることができるようにする。《協調性》</p> <p>◇これまでの学習を生かして、役割を決めて音読したり、演じたりしようとしている。</p> <p style="text-align: center;">【主②(発言・観察)】</p> |
| 見直す  | <p>○動作や工夫を確認しながら、グループで選んだ場面を音読し、感想を伝え合う。</p>  | <p>□自分と友達のよいところを見付けることで、充実感を味わわせる。</p>   |
| 振り返る | <p>○本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きを入れたら、楽しかったです。</li> <li>・リズムをつけて、歌うようにしました。</li> <li>・「おむすびころりん劇場」に向けて、もっと練習を頑張りたいです。</li> </ul>   | <p>□友達が頑張っていたところ、自分が工夫したところを発表することで、次時に生かすことができるようにする。</p>   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

7 本時の指導（4組：8／8時）【見通す・選択する・見直す **振り返る**】

(1) 本時の目標

場面の様子に着目して、登場人物の行動を想像を広げながら、音読したり演じたりすることができる。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント  |
|------|--|--|
| 見通す  | <p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて：おむすびころりんげきじょうをたのしもう。</div> <p>○発声練習をする。<br/>○本時ではおむすびころりん劇場を発表することを確認し、発表する人と聞く人の留意点を確認する。</p>   | <p>□学習の流れを確認することで見通しをもって、学習に取り組めるようにする。</p> <p>□台詞と演技の基礎作りとして、体も動かしながら楽しく音読し、リズム感を養うようにする。</p> <p>□「おおきなかぶ」での学習を参考に、発表する人、聞く人の留意点を確認する。</p>  |
| 選択する | <p>○「おむすびころりん劇場」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしたちのグループは、声の出し方、動き、リズムを工夫して発表します。</li> <li>・わたしたちのグループは、声の出し方、リズム、付け足しを工夫して発表します。</li> </ul>                              | <p>□より意識的に臨むことができるように、グループで話し合った「発表の工夫」を全体に向けて共有させる。</p> <p>★児童自身が選んだ場面や方法で、チームの友達と協力して自分たちの思いや考えを表現することができるようにする。《挑戦》</p> <p>◇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像を広げながら発表している。</p> <p>【知・技②(発言・観察)】</p> |
| 見直す  | <p>○感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムよく読んでいて素敵でした。</li> <li>・「おむすびころりん すっとんとん」を踊りながら読んでいて、楽しそうでした。</li> <li>・とってもびっくりしている感じで、「あれ あれ あれ」を読んでいるのが上手だなと思いました。</li> </ul> | <p>□聞いてくれた人から感想をもらうことで活動を振り返らせる。</p>   |
| 振り返る | <p>○単元全体を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話をすらすらはっきり読めるようになってうれしかったです。</li> <li>・グループで楽しく発表できてよかったです。</li> <li>・練習した踊りをうまく踊れてうれしかったです。</li> </ul>                          | <p>□振り返りの視点を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がかんばったこと、できるようになったこと。</li> <li>・グループで発表して、どのような気持ちだったか。</li> </ul> <p>□振り返りシートを使い、単元の自分の活動を振り返ることができるようにする。</p>               |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

## 第2学年国語科学習指導案

第2学年 1組 2組 3組  
 指導者 横山佳菜 佐藤望夢 北岡千恵

### 研究主題

町田の力  
 ～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

- 1 単元名「ゆめのどうぐはっぴょうかいをしよう」  
 教材名「あったらいいな、こんなもの」

### 2 単元の目標と観点別評価規準

#### (1) 目標

身近なことや経験したことなどから「ゆめのどうぐ」を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。また、質問し合うための語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしたり、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想を伝えたりすることができる。

#### (2) 観点別評価規準

| 評価の観点       | 知識・技能                                       | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|-------------|---|--|---|
| 単元の<br>評価規準 | ① 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 | ① 「話すこと・聞くこと」において、身近なことを経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。              | ① 学習の見通しをもち、単元の学習にすすんで取り組もうとしている。                     |
|             |   | ② 「話すこと・聞くこと」において、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想を伝えている。 | ② 話し手が知らせたいことを落とさないように聞き、学習課題に沿って質問し合って考えをまとめようとしている。 |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本単元は、内容「A話すこと・聞くこと」に関する内容について、構成したものである。ここでは、話すことに関する指導事項としては「相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと」、聞くことに関する指導事項としては「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと」について扱うことが示されている。

## (2) 教材について

本単元では、相手の考えを詳しく知るために、大事なことは何かを考えて質問することが活動の中心となる。「どうして」「何が」「どれくらい」「どんな」といった言葉を用いて質問することで、相手が考えているものの理由や働き、作りを捉えられるようにしたい。

「あったらいいな」と思うものについて、友達と質問し合う活動を設定している。初めは道具の「はたらき」や「つくり」について詳しく決まらなると予想される。そのため、「かんがえたわけ」「はたらき」「つくり」といった5W1Hの観点で質問し合うことで、「あったらいいな」と思うものが、より具体的になっていくような対話を繰り返し、具体的な形になっていくようにする。それらを基に、観点ごとに整理をして、発表メモを作らせたい。

友達と尋ね合うことで、自分の考えが十分でなかったとしても、内容が具体的に決まっていくようにする。

## 4 児童について (学年)

国語科を始め、どの教科においても「やってみたい」という意欲的な姿勢で学習に取り組む児童が多い。昨年度は、ペアやグループでの対話活動を取り入れたことで、友達と関わり合いながら学習ができるようになった児童が増えた。しかし、昨年度行った2回のアンケート調査で「学習を通してできたと感じる」児童の割合があまり増加しなかった。振り返りの時間で、できたことや気づきを認め合い、自己肯定感を高めて前向きに学習に取り組む姿勢を育てていきたい。

## 5 研究主題に迫る具体的な手だて (わくわくポイント)

### (1) 単元のわくわくポイント

「見通す」の段階において、教師の考える「あったらいいな」と思う道具について紹介し、質疑応答をする中で、「早く自分も道具を考えたい」という気持ちや、「自分の道具を発表したい」「友達の道具も知りたい」という気持ちを引き出し、「ゆめのどうぐはっぴょうかい」というわくわくポイントを設定する。マトリックスを使って選択することで、児童が主体的に活動に挑戦していきることができるようにしたり、友達と質問をし合う活動の中で他者受容の力を高めたりすることができるようにする。

### (2) 本時のわくわくポイント

1組：単元のわくわくを設定し、児童が見通しをもって学習に挑戦していこうとする意識を高める。

3組：マトリックスを用いて作成した話型とチェックシートを使い、友達と質問をし合う活動を設定することで挑戦する力や他者受容の力を高めていく。

2組：「ゆめのどうぐはっぴょうかい」を通して、友達と認めあったり、学び合ったりする中で他者受容の力を育む。

教科名

国語

単元名

「ゆめのどうぐはっぴょうかいをしよう」  
教材名「あったらいいな、こんなもの」

7

時間扱い

| 教師による提示                         |   | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）  |  | 振り返りの時間                       |
|---------------------------------|---|--|--|-------------------------------|
| 見通す                             |   | 選択する   | 見直す                                      | 振り返る                          |
| ね<br>ら<br>い                     | 第1時：「あったらいいな」と思うものについて質問をしながら、学習の見通しをもち、学習計画を立てる。   | 第2時：学校をもっとわくわくさせる「ゆめのどうぐ」について考える。<br>第3時：相手の考えをより詳しく知るための質問の仕方を理解し、話型を作る。<br>第4時：友達と質問し合い、「あったらいいな」と思うものについて、より詳しく考える。<br>第5時：質問することのよさに気づき、進んで質問したり、応答したりして、自分の考えをまとめる。 | 第6時：「ゆめのどうぐはっぴょうかい」を開き、自分の考えた道具について発表する。 | 第7時：単元の学習を振り返り、質問することのよさに気付く。 |
|                                 | 第1時【主①（発言・観察）】  | 第2時【思・判・表①（記述）】<br>第3時【知・技①（発言・観察）】<br>第4時【思・判・表②（発言・観察）】<br>第5時【知・技①（発言・観察）】  | 第6時【思・判・表②（発表・発言）】                       | 第7時【主②（発言・記述）】                |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く | <p style="text-align: center;">単元わくわく：「ゆめのどうぐはっぴょうかい」をしたい！</p> <p>・「ゆめのどうぐ」ってどんなものなんだろう？      ・友達の「ゆめのどうぐ」について知りたい！      ・自分の考えた「ゆめのどうぐ」を発表したい！<br/>・学校をもっとわくわくさせる「ゆめのどうぐ」を考えたい！      ・友達の「ゆめのどうぐ」について詳しく質問したい！</p> |  |  |                               |

7 本時の指導（1組：1／7時）【見通す】 選択する・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

単元のわくわく「ゆめのどうぐはっぴょうかい」を提示することを通して、学習計画を立てて見直しをもつことができる。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント  |
|------|--|--|
| 見通す  | <p>○教師が考えた「ゆめのどうぐ」を提示し、自由に質問をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなことができますか。</li> <li>・このボタンを押すと何ができますか。</li> <li>・大きさはどれくらいですか。</li> </ul> <p>○どんな質問をすると道具のことを詳しく知ることができるか、今の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作ったわけを聞く。</li> <li>・色や大きさを聞く。</li> <li>・どんなことができるかを聞く。</li> </ul> <p>○学習のゴールに「ゆめのどうぐはっぴょうかい」を開くことを提示し、意欲的な気持ちを高める。</p> | <p>□教師が考えたオリジナルの道具を紹介し、児童の意欲を高める。</p> <p>□自由に質問させ、道具のことを詳しく知ることができるようにする。</p> <p>□最初の質問をする活動から、単元のめあてや学習計画を立てる活動に繋がっていくようにする</p> <p>★単元のわくわくを提示し、児童が学習意欲を高めて挑戦する意識をもって取り組むことができるようにする。《挑戦》</p> |
|      | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">単元のめあて：「ゆめのどうぐはっぴょうかい」をしよう。</div>   |  |
|      | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">本時のめあて：学しゅうのけいかくを立てよう。</div>  |  |
|      | <p>○「ゆめのどうぐはっぴょうかい」に向けて、どのように学習を進めていったらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分があったらいいなと思うものを書く。</li> <li>・質問の仕方をたしかめる。</li> <li>・友達と質問し合う。</li> <li>・発表の練習をする。</li> <li>・ゆめのどうぐはっぴょうかい</li> </ul>  | <p>□学習のゴールを明確にすることで、児童がどのように学習を進めていけばよいか考えやすくなるようにする。</p> <p>◇学習の見直しをもち、単元の学習にすすんで取り組もうとしている。【主①（発言・観察）】</p>   |
| 振り返る | <p>○本時の学習を振り返り、次時の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と質問し合いながら、ゆめのどうぐを完成させたい。</li> <li>・友達に上手に質問ができるようになりたい。</li> </ul>   | <p>□単元のめあてと学習計画の振り返りを声掛けすることで、どんなことができるようになりたいか意欲を高めることができるようにする。</p>  |

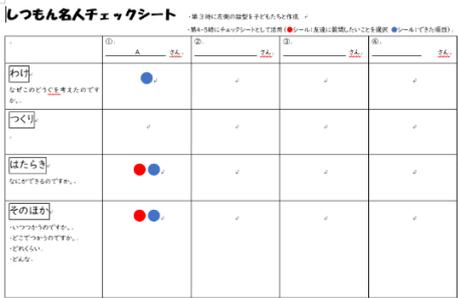
※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

7 本時の指導（3組：4／7時）【見通す・**選択する**・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

友達と質問し合い、「あったらいいな」と思うものについて、より詳しく考えることができる。

(2) 本時の展開

|                                     | ○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|-------------------------------------|---|---|
| 見通す                                 | <p>○前時の学習を振り返る。<br/>みんなで考えた質問するときの話型を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わけについて質問するといいです。</li> <li>・大きさや形を詳しく聞きたいです。</li> </ul> <p>○学習計画に沿って、本時のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は、友達と質問をし合う時間だね。</li> <li>・友達の考えていることを知りたい。</li> </ul>  | <p>□前時に学習した、「相手の考えをより詳しく知るための質問の仕方」を確認する。</p> <p>□学習計画を提示することで、児童が見通しをもって学ぶことができるようにする。</p>   |
| <p>めあて：しつもんをして、ともだちの考えをくわしく知ろう。</p> |   |   |
| 選択する                                | <p>○いくつかの「ゆめのどうぐ」の絵を見ながら、チェックシートの使い方と質問のしかたを、全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックシートを使うと、質問が考えやすいな。</li> <li>・この質問はまだしていなかったから、してみたいな。</li> </ul>  <p>しつもん名人チェックシート</p> <p>○友達と二人組になり、質問し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしてこの道具を考えたのですか。</li> <li>・何ができるのですか。</li> <li>・どれくらい〇〇できるのですか。</li> </ul> <p>○質問の仕方を振り返る。</p> | <p>□実際に考えた児童の絵だけを黒板に貼ることで、どんな道具なのか質問したいという興味関心を引き出すようにする。</p> <p>□全体の前で、チェックシートを使って質問をする場面を共有することで、活動の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>★マトリックスを用いて作成した話型やチェックシートを活用して友達と質問をし合う活動を設定することで、挑戦や他者受容の力を高めることができるようにする。《挑戦・他者受容》</p> <p>◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっている。【思・判・表②（発言・記述）】</p> <p>□対話が上手くいかないペアには、教師が例示的に質問したり、話型カードを使用したりすることで、児童が質問しやすくなるようにする。</p> |
| 見直す                                 | <p>○発表メモの書き方を全体で確認する。</p> <p>○考えた内容を発表メモに書き、発表の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたわけと、どんなことができるかは必ず発表したいな。</li> <li>・〇〇の説明をもっと詳しく言わないといけないな。</li> </ul>  | <p>□自分の考えた道具について整理する時間を設けることで、児童が次時への見通しをもつことができるようにする。</p>   |
| 振り返る                                | <p>○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達にたくさん質問することができた。</li> <li>・質問されたことに答えることができた。</li> <li>・友達の道具のことが詳しく知れて楽しかった。</li> </ul>  | <p>□マトリックス（チェックシート）を提示することで、本時の学習で「できたこと」について振り返ることができるようにする。</p>   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）



## 第3学年理科学習指導案

第 3 学 年 1 組 3 組  
指導者 大 淵 盛 寿 高 田 裕 一 郎

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

#### 1 単元名「風やゴムの力」

#### 2 単元の目標と観点別評価規準

##### (1) 目標

風やゴムの力とものの動く様子に着目して、それらを比較しながら、風とゴムの力の働きを調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

##### (2) 観点別評価規準

| 評価の観点       | 知識・技能  | 思考・判断・表現                                 | 主体的に学習に取り組む態度                         |
|-------------|--|--|---------------------------------------|
| 単元の<br>評価規準 | ① 風の色やゴムの力で使う実験器具を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。     | ① 風の色やゴムの力の働きについて、差異点や共通点を基に、問題を見いだしている。 | ① 風とゴムの力の働きについての事物・現象に進んで関わろうとしている。   |
|             | ② 風の色は、物を動かすことができること、風の色を変えると、物が大きさを変わると、物が動く様子も変わること理解している。 | ② 見いだした風の色やゴムの力の働きについての問題を解決している。        | ② 他者と関わりながら問題解決しようとしている。              |
|             | ③ ゴムの力は、物を動かすことができること、ゴムの力の色を変えると、物が動く様子も変わること理解している。        |  | ③ 風とゴムの力の働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本単元は、「エネルギー」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「エネルギーの捉え方」に関わるものであり、第5学年「A（2）振り子の運動」の学習につながるものであることが示されている。

#### (2) 教材について

理科の入門期である実験で大切なことは、遊びから学習へと転換していく過程を構成していくことと、実験から何が分かったかを児童が捉えられるようにすることである。そのため、本単元では、帆掛け車やゴム車を活用し、導入の活動でピタリパーキングゲームを行う。その中で「どうすれば高得点がとれるのか。」と考えることを通して、児童自ら問題が見いだしていき、児童がポジティブに学習に取り組むことを目指していく。また、風やゴムの働きについて興味・関心をもって追究する活動を通して、風やゴムを働かせたときの現象の違いを比較する資質を育てるとともに、それらについての理解を図っていく。

### 4 児童について（学年）

本学年は、観察が好きな児童が多く、理科の学習を楽しみにしている。これまでに生活科の学習では、自分が育てていた植物を継続的に観察したり、身近な動物を観察したりする学習を行ってきた。このように、これまで事象の特徴やきまりをまとめるという学習活動を経験してきた。このように、これまで事象の特徴やきまりをまとめるという学習活動を経験してきた。昨年度行った学習わくわくアンケートでは、「自らすすんで学習していますか」という質問において「よくあてはまる」と回答した児童の割合は56.7%という結果だった。この結果や普段の様子から、失敗することや間違えることを恐れている児童が多く、主体性や積極性が低いといえる。そのため、本単元では一人一台の実験キッドで実験を行い、失敗しても何度でも問題に挑戦できるという安心感をもって主体的に問題解決に取り組ませていく。

### 5 研究主題に迫る具体的な手だて（わくわくポイント）

#### (1) 単元のわくわくポイント

本単元の風やゴムの力との出会いの場面では、帆掛け車やゴム車を使ったパーキングゲームを通して共通体験をしていく。共通体験では、同じ車を使っても風やゴムの力が弱すぎると車が動かなかったり、強すぎると行き過ぎてしまったりするため、児童がゲームを通して風やゴムの力を利用して車が走る仕組みに対して興味・関心をもつことが期待できると考えた。また、一人1台の実験キッドで実験を行うため、児童は失敗しても何度でも問題に挑戦できるという安心感をもって問題解決に取り組むことができると考えた。「風やゴムの力の不思議を解決したい」というわくわくポイントを設定しながら、これらを生かすことで、児童が問題を解決するために、より粘り強く取り組んでいくことができるようにしていく。

#### (2) 本時のわくわくポイント

- 1組：ゲームから得た共通体験から問題や解決方法を見出すことによって、児童は問題を自分事として捉え、主体的に解決していこうとする意欲が生まれるようにする。
- 3組：一人1台の実験でゴム車を十分に操作する時間を確保することで、児童が粘り強く問題解決に向き合えるようにする。また、児童が調べたい順序で実験することを通して、問題解決に向けて積極的に向き合うことができるようにする。

教科名

理科

風やゴムの力

9

時間扱い

|                                      | 教師による提示  | 子どもの学びの時間(教師の支援の時間)   |  | 振り返りの時間  |
|--------------------------------------|--|---|--|--|
|                                      | 見通す  | 選択する  | 見直す  | 振り返る   |
| ね<br>ら<br>い                          | 第1・2時：帆掛け車作り、帆掛け車を使ったパーキングゲームを行い、風の力に興味・関心をもたせながら学習問題をつくる。   | 第3時：生活経験や共通体験から問題に対する解決方法を予想し、自分たちで考えた実験方法で確かめる。  | 第4時：実験結果から実験方法を見直し、妥当な実験方法で再度実験を行う。  | 第5時：実験結果を共有し、結論を導出する。  |
|                                      | 第6時：ゴム車を使ったパーキングゲームを行い、ゴムの力に興味・関心をもつ。  | 第7時：前時のパーキングゲームから学習問題をつくり、生活経験や共通体験を生かしながら問題に対する解決方法を予想する。  | 第8時：自分たちで考えた実験方法で確かめる。   | 第9時：実験結果を共有し、結論を導出する。また、単元を通じた自己の学びについて振り返る。                       |
| 【<br>評<br>価<br>（<br>方<br>法<br>）<br>】 | 第1・2・6時【主①(態度)】  | 第3時【知・技①(記述)】<br><br>第3・7時<br>【思・判・表①(記述・態度)】   | 第4時【思・判・表②(記述)】<br><br>第8時【知・技①(記述)】<br>【主②(記述・発言)】                                | 第5時【知・技②】<br>(記述・発言)<br><br>第9時【知・技③】<br>(記述・発言)<br>第9時【主③】(記述・発言) |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く      | <p style="text-align: center;">単元わくわく：帆掛け車やゴム車を使った実験が楽しみ。</p>  |   |  |  |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>パーキングゲームで勝つことができた。</li> <li>どうしたらパーキングゲームで高得点がとれるのだろう。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えた(選んだ)実験方法で予想を確かめられる。</li> <li>一人1実験ができるから、何回でも挑戦できる。</li> <li>一人1台あるから、失敗しても何回でも実験に挑戦できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>帆掛け車やゴム車をどのようにすると進む距離が変わるのが分かった。</li> </ul> |  |

7 本時の指導（1組：7／9時）【見通す・**選択する**・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

ゴムの力の働きについて、差異点や共通点を基に、問題を見だし、実験方法について考える。

(2) 本時の展開

|                | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント  |      |      |                |                     |                     |                |                    |                     |  |
|----------------|--|--|------|------|----------------|---------------------|---------------------|----------------|--------------------|---------------------|--|
| 見通す            | <p>○前時の結果や遊びの中での感想を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとゴムを引っ張りたい。</li> <li>・遠くのパーキングまで届かなかった。</li> <li>・遠くのパーキングに届くようにしたい。</li> </ul>   | <p>□前時や帆掛け車で遊んだ経験を思い出すよう働きかける。</p>   |      |      |                |                     |                     |                |                    |                     |  |
|                | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>めあて：学習問題をつくって、問題を解決する方法を考えよう。</p> </div>  |  |      |      |                |                     |                     |                |                    |                     |  |
|                | <p>○共通体験や既習事項から遠くの得点ゾーンにピッタリ止めるにはどうすればよいか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風の力と同じように、強くすればするほど車が動く距離が長くなると思う。</li> <li>・前の時間でゴムを強く引っ張ったら遠くまで車が進んだので、強く引っ張ればよいと思う。</li> <li>・ゴムを増やすと遠くまで走ると思う</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>問題</b> ゴムの数や伸ばし方を変えると、車が動く距離はどのように変わるのだろうか。</p> </div>  | <p>□「ゴムを引く長さを変えると」と考えた児童を称賛し、価値づける。</p> <p>★ゲームから得た共通体験から解決方法を見出すことによって、主体的に問題を解決していこうとする意欲が生まれるようにする。《挑戦》</p> <p>◇ゴムの力の働きについて、差異点や共通点を基に、問題を見だし、実験方法について考える。</p> <p>【思・判・表①(記述・発言)】</p> |      |      |                |                     |                     |                |                    |                     |  |
| 選択する           | <p>○調べたい順番を自分で選択し、結果を予想する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ゴム1本</th> <th>ゴム3本</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遠くピッタリ<br/>(予想)</td> <td>①<br/>○○cm<br/>(10cm)</td> <td>②<br/>○○cm<br/>(20cm)</td> </tr> <tr> <td>近くピッタリ<br/>(予想)</td> <td>③<br/>○○cm<br/>(5cm)</td> <td>④<br/>○○cm<br/>(10cm)</td> </tr> </tbody> </table> |  | ゴム1本 | ゴム3本 | 遠くピッタリ<br>(予想) | ①<br>○○cm<br>(10cm) | ②<br>○○cm<br>(20cm) | 近くピッタリ<br>(予想) | ③<br>○○cm<br>(5cm) | ④<br>○○cm<br>(10cm) | <p>□次時の実験方法(遠くピッタリ、近くピッタリゲーム)を紹介する。</p> <p>□①から④のどこから実験を行ってもよいが、必ず全て行うように説明する。</p> <p>★児童が調べたい順序で実験することを通して、問題解決に向けて積極的に向き合うことができるようにする。《挑戦》</p> |
|                | ゴム1本   | ゴム3本   |      |      |                |                     |                     |                |                    |                     |  |
| 遠くピッタリ<br>(予想) | ①<br>○○cm<br>(10cm)  | ②<br>○○cm<br>(20cm)  |      |      |                |                     |                     |                |                    |                     |  |
| 近くピッタリ<br>(予想) | ③<br>○○cm<br>(5cm)   | ④<br>○○cm<br>(10cm)  |      |      |                |                     |                     |                |                    |                     |  |
| 振り返る           | <p>○本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当にゴムを長く伸ばすと、車の進む距離が長くなるのか早く確かめたい。</li> <li>・自分の予想を早く確かめたい。</li> </ul>   | <p>□本時の学習を通して、学習に対して挑戦する気持ちがどうだったかについて振り返るよう声を掛ける。</p> <p>□理由についても振り返っている児童を称賛し、価値付ける。</p>   |      |      |                |                     |                     |                |                    |                     |  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

7 本時の指導（3組：8／9時）【見通す・選択する **見直す**・振り返る】

(1) 本時の目標

他者と関わりながら問題解決しようとする。

ゴムの力で使う実験器具を正しく扱いながら調べ、得られた結果を分かりやすく記録する。

(2) 本時の展開

|   | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応   | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |      |      |            |      |      |            |      |      |   |
|---|---|---|------|------|------------|------|------|------------|------|------|---|
| 見通す   | <p>○前時の学習を振り返り、自分の予想と実験順を確認する。</p> <p>・僕は、ゴム2本の遠くピッタリから調べてみるよ。<br/>・私は、近くピッタリから始めて、ゴム1本と2本の違いから調べてみるよ。</p>  | <p>□学習の流れを学びの地図で示し、実験結果をまとめることが本時のめあてであることを明確にする。</p>   |      |      |            |      |      |            |      |      |   |
| <p>めあて：どれくらいゴムを引くと、ピッタリ車が止まるのか、実験して確かめよう。</p> |   |   |      |      |            |      |      |            |      |      |   |
| 選択する・見直す                                      | <p>○実験をしながら、ゴムの種類や伸ばし方による車の動く距離を記録する。</p> <p>・ゴム1本で遠くピッタリにするには○○cmゴムを引けばピッタリ止まった。<br/>・ゴム2本で遠くピッタリにするには○○cmゴムを引けばピッタリ止まった。<br/>・ゴム1本で近くピッタリにするには○○cmゴムを引けばピッタリ止まった。</p>   | <p>□次時の実験方法(遠くピッタリ、近くピッタリゲーム)のルールを確認する。</p> <p>◇他者と関わりながら問題解決しようとしている。【主②(観察)】<br/>★一人1実験でゴム車を十分に操作する時間を確保することで、児童が粘り強く問題解決に向き合えるようにする。《粘り強さ》</p> |      |      |            |      |      |            |      |      |   |
| 振り返る  | <p>○実験結果を共有する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ゴム1本</th> <th>ゴム2本</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遠くピッタリ(予想)</td> <td>○○cm</td> <td>○○cm</td> </tr> <tr> <td>近くピッタリ(予想)</td> <td>○○cm</td> <td>○○cm</td> </tr> </tbody> </table> |   | ゴム1本 | ゴム2本 | 遠くピッタリ(予想) | ○○cm | ○○cm | 近くピッタリ(予想) | ○○cm | ○○cm | <p>◇ゴムの力で使う実験器具を正しく扱いながら調べ、得られた結果を分かりやすく記録している。<br/>【知・技①(記述)】</p> <p>□一人一人の実験結果を散布図で示す。</p> <p>□まとめの結果をマトリックスに書き入れる。</p> |
|   | ゴム1本  | ゴム2本  |      |      |            |      |      |            |      |      |   |
| 遠くピッタリ(予想)                                    | ○○cm  | ○○cm  |      |      |            |      |      |            |      |      |   |
| 近くピッタリ(予想)                                    | ○○cm  | ○○cm  |      |      |            |      |      |            |      |      |   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

## 第3学年国語科学習指導案

第3学年2組・4組

指導者 小澤佳奈子 天野史香

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

1 単元名「町一ショートショートコンテスト」 ※町田市が提案する取組

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

想像したことから書くことを選び、集めた材料から伝えたいことを明確にし、「ショートショート」を書くことを通して、一つの言葉を多角的にとらえ、想像力を働かせることで語彙を豊かにすることができる。

(2) 観点別評価規準

| 評価の観点       | 知識・技能                                 | 思考・判断・表現                         | 主体的に学習に取り組む態度                                |
|-------------|---------------------------------------|----------------------------------|--|
| 単元の<br>評価規準 | ① 言葉から想像を広げて考えたり、組み合わせたりして語彙を豊かにしている。 | ① 言葉を組み合わせで不思議なタイトルを創造している。      | ① 身近なことやこれまでの経験を基に想像を広げ、自分の思いを膨らませて書こうとしている。 |
|             |                                       | ② 創造した言葉から物語の題材を決め、工夫して物語を書いている。 | ② 友達の物語を読んで、よさを見付けようとしている。                   |

3 単元について

(1) 学習指導要領との関連

本単元は、学習指導要領内容の書くこと(1)ア「相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること」、言葉の特徴や使い方に関する事項(1)オ「様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること」に関する内容について、構成したものである。ここでは、語彙を豊かにすることと、書くことを選び、伝えたいことを明確にすることを扱うことが示されている。

## (2) 教材について

町田市民文学館ことばらんどで開催されている「ことばらんどショートショートコンクール」に応募する作品を学年で作成し、読み合う学習である。自分の生活から言葉をたくさん出し、それを一文で説明する。言葉と説明を組み合わせ、不思議な言葉を作る。さらにいいところや悪いところなどを想像し、詳しく書く。そこから物語にする。活動の特徴は、言葉から自由な発想や創造力を伸ばし、短い物語にまとめることである。本来は個々の制作になるが、グループで学び合うことによって協調性を高めるとともに創造性を伸ばしていきたい。

## 4 児童について (学年)

全体的に表現が豊かな児童が少なく、書くことに対して言葉が出てこない児童が多い。日記や感想文など、題材や内容などを選択肢を提示し、選択させることで書き進めることができるようになってきた。『春風にのって』では、登場人物の気持ちを読み取り、内容の流れを意識しながら続きの物語を考えた。「黄金にかがやくさばく」を「あたり一面の麦畑」と想像することができた児童が5割程度おり、「森を抜けるとさばくについた」と想像して書くことに課題のある児童が2割程いた。また、物語を書く際、事実が中心になる児童が多く、表現を工夫することができた児童は少ない。文章を書くことに課題のある児童が多い。以上の実態から友達と協働的に活動することを通して「できそう」「やってみたい」と感じさせ、学習課題を達成できるようにした。

## 5 研究主題に迫る具体的な手だて (わくわくポイント)

### (1) 単元のわくわくポイント

学年でショートショートコンクールを開き、それぞれで読み合って賞を決める。友達と協働的に学習したり、友達の作品から学び合ったりできるようにする。また、町田市民文学館ことばらんどで開催されている「ことばらんどショートショートコンクール町田市」に応募する。

### (2) 本時のわくわくポイント

- 2組：自由な発想に対して「やってみたい」「おもしろそう」といった挑戦心をもって取り組むことができるようにする。また、言葉を考える場面では、グループで行うことで様々な視点の考えが共有して「できそう」と感じるなど、挑戦しやすくなるようにする。
- 4組：前時で共有した「不思議なタイトル」から自分が書きたいことを選び、物語を書くことができるようにする。その際、グループで確認したり、アイデアを共有したり認め合い・学び合いを集団形態を工夫しながら物語を書き、他者受容力が育まれるようにする。

教科名

国語科

単元名

町一ショートショートコンテスト

4

時間扱い

|                                      | 教師による提示  | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）          |                    | 振り返りの時間            |
|--------------------------------------|--|------------------------------|--------------------|--------------------|
|                                      | 見通す  | 選択する                         | 見直す                | 振り返る               |
| ね<br>ら<br>い                          | 第1時：発想することの面白さを感じ学習に見通しをもつ。  | 第2時：不思議なタイトルに沿って物語の構成を考える。   | 第3時：構成をもとに短い物語を書く。 | 第4時：友達と読み合っよさに気付く。 |
| 「<br>評<br>価<br>（<br>方<br>法<br>）<br>」 | 第1時：【思・判・表①(記述)】<br>【知・技①(記述)】   | 第2時：【思・判・表②(記述)】<br>【主①(記述)】 | 第3時【思・判・表②(記述)】    | 第4時【主②(記述)】        |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く      | <p>単元わくわく：学年で開くコンテストが楽しみ！</p> <p>・発想するっておもしろいな！      ・どんなテーマにしようかな？      ・友達の作品面白い！      ・友達に褒めてもらえた！</p> <p>・楽しくつくってみたい！</p> <p>・友達とならできそう！</p> |                              |                    |                    |

7 本時の指導（2組：1／4時）**見通す**・選択する・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

自由な発想を伝え合う活動を通し、言葉の発想を豊かにしたり、他者の考えの良さに気付くことができる。

(2) 本時の展開

|                                | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント  |
|--------------------------------|--|--|
| 見通す                            | <p>○物事を多角的にとらえることで、発想することの楽しさを感じる。</p> <p>○「りんごかもしれない」を考えながら読み聞かせを聞く。<br/>・おもしろい。<br/>・そんな見方があるのか。</p> <p>○ひらめきゲームを行う。<br/>イラストを見て何があったかを考える。<br/>例：大きな歯ブラシを持っている人の絵<br/>・像の歯を磨くように買った。<br/>・家を磨く。</p> | <p>□自由な発想を認め、意見を出やすくし、考える視点を広げるとともに学習に見通しをもつ。</p> <p>□T2にショートショートについて紹介してもらおう。</p> <p>★発想することは楽しいと体験させることで、「やってみたい」「おもしろそう」といった挑戦心をもって取り組むことができるようにする。【挑戦】</p> |
| <p>めあて：いろいろな言葉を考えて組み合わせよう。</p> |  |  |
| 選択する                           | <p>○「昨日のこと」、「好きなことやもの」について振り返り、目に映ったものやことを言葉カード（黄）にたくさん書き、グループで共有する。</p> <p>○言葉カードをいくつか選び、そこから思いつくことを考え、思い付きカード（赤）に書く。</p>   | <p>□場面を限定することで全員が言葉を見付けることができるようにする。</p> <p>□全体で例を示すことで考えることが理解できるようにする。</p>   |
| 見直す                            | <p>○言葉カードと思い付きカードを自由に組み合わせるふしぎなタイトルを作る。<br/>「○○（思い付き）な△△（言葉）」</p> <p>○学級でふしぎなタイトルを共有する。</p>  | <p>□ふしぎな面白さがある言葉の組み合わせを選ぶよう助言する。</p> <p>□ランダムにとって組み合わせるなどのゲーム性をもたせる。</p> <p>◇言葉を組み合わせる不思議なタイトルを創造することができる。<br/>【思・判・表①(記述)】</p>                                |
| 振り返る                           | <p>○学習の振り返りをし、次時に見通しをもつ。<br/>・早く物語を書いてみたいです。<br/>・面白い不思議なタイトルを考えることができました。<br/>・面白い物語を想像することができました。</p>  | <p>□学習を通してこれからどのような物語を書いていきたいかを中心に振り返らせる。</p> <p>◇言葉から想像を広げて考えたり、組み合わせたりして語彙を豊かにしている。【知・技①(記述)】</p>  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

8 本時の指導（4組：2／4時）【見通す・**選択する**・見直す・振り返る】

(1) 本時のねらい

物語の題材を決め、想像を広げることができる。

(2) 本時の展開

|                           | ○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|---------------------------|---|---|
| 見通す                       | ○学習に見通しをもつ。   | □学びの地図を掲示し、学習のゴールと流れをつかませる。<br>□前回の授業の内容を想起させる。   |
| めあて：ふしぎなタイトルから物語をそうぞうしよう。 |   |   |
| 選択する                      | ○前回決定したタイトルから、良さ・悪さを考える。<br>→タイトルを変更したい人は変更する。<br><br>○ワークシートを記入する（個人）  | □良いところと悪いところと限定することで書き始めやすくする。<br><br>□ワークシートを活用することで対照的に考えられるようにする。  |
| 見直す                       | ○友達と相談したり、意見を出し合ったりしながら想像をさらに広げる。<br>・悪いところが思いつかないのですが、何かいいアイデアはありますか。<br>・もっとこうすると面白くなりそうですよ。<br>・このアイデアいいですね。<br><br>○良さと悪さを組み合わせ、物語の大体を構成する。 | ★グループで行うことで様々な視点の考えが共有でき、自然と相手を受け入れ、自分の考えに反映させることができるようにする。【他者受容】<br>□T2とともに机間指導をし、児童の考えを認め、思考を促す助言を行う。「もっとこうした方がよい。」の指導は行わないようにする。<br>◇創造した言葉から物語の題材を決め、工夫して物語を書くことができる。【思・判・表（記述）②】 |
| 振り返る                      | ○学習の振り返りをし、次時に見通しをもつ。<br>・友達と話しながら学習したことで想像が広がりました。<br>・友達とできて楽しかったです。<br>・友達の物語にアドバイスできて嬉しかったです。   | ◇身近なことやこれまでの経験を基に想像を広げ、自分の思いを膨らませて書こうとしている。【主（記述）①】   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

# 特別支援学級（知的固定）生活単元学習学習指導案

ひまわり学級1組

指導者 鶴原琢朗 梅本睦美 津川太老

廣戸志帆 秋本陸哉

## 研究主題

町田の力

～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

### 1 単元名「じしゃくで あそぼう」

### 2 単元の目標と観点別評価規準

#### (1) 目標

日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすることや、きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けることを通して、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

#### (2) 観点別評価規準

| 評価の観点   | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|---------|---|---|---|
| 単元の評価規準 | ① 簡単なきまりのある遊びを通して、「ありがとう」という言葉を使い、友達と仲良く遊ぶことの知識や技能を身に付けている。 | ① 遊びの中で友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫したりして、1年生に楽しんでもらおうとしている。 | ① 自分でおもちゃ作りに取り組もうとしたり、友達や1年生と関わったりして、意欲や自信をもって学ぼうとしている。 |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本単元は、特別支援学校学習指導要領「生活科3段階(2)エ 遊び」に関する内容について、構成したものである。ここでは、友達と一緒にルールのある遊びを楽しんだり、共通の関心をもつ友達と一緒に楽しんだりする中で、約束や役割を分かって遊ぶことができるようにすることや、友達と協力したりきまりを守ったりして遊ぶことにより、楽しんでもらえたという充実感をもてること、自分で工夫したり考えたりする経験を通して、友達と主体的に関わりをもとうとする意欲や態度につなげることを扱うことが示されている。

## (2) 教材について

生活単元学習の中で、「理科 A物質・エネルギー」の内容を中心に、児童にとって身近な自然の事物・現象について年間を通して扱っている。本単元では、具体物である磁石を扱うことで身近な自然の事物・現象への興味関心をもてるようにする。

また、本単元では、お店屋さんを開いて交流学級の1つである1年4組に楽しんでもらうことをゴールとしている。「見通す」段階において、6種類の磁石を使ったおもちゃを用意し、きまりを守り、友達と関わりをもちながら仲良く遊ぶことができるようにする。遊んだおもちゃの中から自分自身のお気に入りを選び、それを作成することで、同じものをお気に入りを選んだ共通の関心をもつ友達と交流ができるようにする。それぞれが作成したおもちゃで1年4組に楽しんでもらえるように、児童が自ら簡単なルールを設定したお店屋さんをそれぞれ作り、きまりのある遊びをまずは学級内で仲良くできるようにし、その後1年4組に遊んでもらうようにする。

「仲良く」遊ぶことのポイントとして、「ありがとう」という言葉をキーワードとして取り上げる。おもちゃで遊ぶとき、作成するとき、お店屋さんを開くとき、それぞれの場面で「ありがとう」を言う場面を意識させて児童が言葉として発することができるようにする。

## 4 児童について

本学級は、第1学年～第6学年までの児童**25名**で構成されており、児童による発達段階に大きな差がある。教室を学年によって2つに分けているが、学習活動によっては、発達段階別のグループや縦割りグループとして活動することで、学年を跨いだ児童同士の関わりがある。高学年が低学年に対して優しく声をかけるなどの良い関わりがある一方、友達との関わりの幅が狭い児童や、きまりを守ることに課題がある児童もいる。

また、昨年度の研究実践や学習アンケートを経て、児童が学習のゴールを理解して取り組むことで、安心して学習に参加する様子があった。スライド等を活用して、視覚的な支援を取り入れながら学習計画を示すことで、見通しをもって学習に取り組むことができると考える。一方、主体的に学ぶ姿勢については課題があったため、児童一人一人が作成したいおもちゃを選択したり、お店屋さんのルールを自ら決定する場面を取り入れるように単元を構成することで、児童の意欲を高めながら目標を達成できるような学習展開を目指していく。

## 5 研究主題に迫る具体的な手だて（わくわくポイント）

### (1) 単元のわくわくポイント

単元のゴールとして、お店屋さんを開いて交流学級の1つである1年4組に楽しんでもらうことを設定する。「見通す」段階において、おもちゃを使ってきまりを守り友達と関わりをもちながら仲良く遊ぶと同時に、1年4組が楽しく遊ぶには？を考えることができるようにする。「選択する」「見直す」段階では、遊んだおもちゃの中から自分自身のお気に入りを選び作成する。同じものをお気に入りを選んだ共通の関心をもつ友達と交流をすることで認め合う学び合う集団形成を行い、他者受容の力を育てていく。お店屋さんとして互いの作成したおもちゃで交流をし、その経験を踏まえてさらに1年4組が楽しく遊ぶには？を考えることで挑戦する力を育てていく。

### (2) 本時のわくわくポイント

視覚的な支援等を活用することで学習の見通しを明確にする。そして、児童が友達のおもちゃで遊ぶことを楽しみにし、友達との関わりをもちながら、きまりを守って活動することで他者受容の意識をもつことができるようにする。

教科名 生活単元学習

単元名 じしゃくであそぼう

12 時間扱い

|          | 教師による提示   | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）  |  | 振り返りの時間                                   |
|----------|---|--|--|---|
|          | 見通す   | 選択する   | 見直す  | 振り返る                                      |
| ねらい      | 第1～3時：おもちゃで遊び、友達と関わったりきまりを守ったりしながら活動への意欲を高める。   | 第4～5時：おもちゃの中からお気に入りを選び、共通の関心をもつ友達と作成をする。<br>第8～9時：作成したおもちゃを紹介し、学級でお店屋さんを開いてきまりを守って仲良く遊ぶ。<br>第11時：お店屋さんを開いて1年4組ときまりを守って仲良く遊ぶ。 | 第6～7時：作成したおもちゃを使ってお店屋さんをするには、どんな工夫をしたりきまりを作ったりしたらよいか考える。<br>第10時：1年4組に楽しんでもらうためにお店さんにさらにどんな工夫をしたらよいか考える。 | 第12時：単元の活動を振り返り、仲良く遊べたことや、きまりを守れたことを伝えあう。 |
| 〔評価（方法）〕 | 第1～3時：<br>【知・技①（行動観察）】  | 第4～5時：【主①（行動観察）】<br>第8～9時：【知・技①（行動観察）】<br>第10時：【思・判・表①（行動観察）】<br>第11時：【主①（行動観察）】 【思・判・表①（行動観察）】                              | 第6～7時：【思・判・表①（行動観察）】   | 第12時：<br>【主①（発言）】<br>【知・技①（発言）】           |
| 児童のわくわく  | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     単元のわくわく：おもちゃを作ってお店屋さんを開いて、1年4組のみんなに楽しんでもほしい！                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このおもちゃが楽しい！</li> <li>・友達に遊び方のコツを教えてあげた！</li> <li>・このおもちゃを作りたい！</li> <li>・どうしたら1年生が楽しめるかな？</li> <li>・1年生が楽しんでもくれた！</li> <li>・きまりを守って遊べた！</li> </ul> |  |  |   |

7 本時の指導（9／12時）【見通す・**選択する**・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

作成したおもちゃを紹介し、学級でお店屋さんを開いてきまりを守って仲良く遊ぶ。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応   | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント  |
|------|--|--|
| 見通す  | <p>○学習の流れとめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いよいよお店屋さんだ。</li> <li>・「ありがとう」の言葉が出てきたね。</li> </ul>   | <p>□「ありがとうの花」を歌い、「ありがとう」の言葉を意識させる。</p> <p>□学習活動に対するイラストを入れることで、ひらがなが読めない児童も理解できるようにする。</p>   |
|      | <p>めあて：じしゃくのおもちゃで きまりをまもって なかよくあそぼう。</p>   |  |
|      | <p>○自分たちのお店紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優しく釣ってください。</li> <li>・好きな迷路を選んでね。</li> </ul> <p>○お店屋さんをやるとき、お客さんとして回るときの「仲良く」するポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊んでくれたら「ありがとう」って言う。</li> <li>・おもちゃを渡してくれたら「ありがとう」を言う。</li> </ul> | <p>□事前に撮影したCM動画を見る。</p> <p>□児童が考えることが難しい場合は、教員とロールプレイを行って児童が考えやすいようにする。</p>  |
| 選択する | <p>○お店屋さんをやる児童が場づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・僕は今日お店屋さんをやる日だ。</li> <li>・〇〇くんの作った磁石めいろで遊びたい。</li> </ul> <p>○半分の児童がお店屋さんをやり、もう半分の児童がお客さんとして、お店を回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次は、緑教室のお店へ行こう。</li> <li>・この磁石の迷路すごい！</li> </ul>   | <p>□お客さんの児童は、待っている間に、一緒に回る縦割りグループを確認する。</p> <p>★価値ある対話を共有し「ありがとう」という言葉が出てくるような声掛けをすることで、他者受容の意識をもつことができるようにする。《他者受容》</p> <p>◇簡単なきまりのある遊びを通して、「ありがとう」という言葉を使い、友達と仲良く遊ぶことの知識や技能を身に付けている。</p> <p>【知・技①（行動観察）】</p> |
| 振り返る | <p>○本時の学習の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魚釣りを仲良くできたよ。</li> <li>・ルールを守って迷路をやってくれた。</li> <li>・「ありがとう」が言えたよ。</li> </ul>   | <p>□次回は、お店屋さんさらにどんな工夫をしたらよいかを考えることを確認し、次時への見通しをもたせる。</p>   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

## 特別支援学級（自閉症・情緒固定）学習指導案

ひまわり学級2組

指導者 高橋丈子 瀧本大成 鴨志田美佐子  
佐藤友佳 栗原辰朗 大石直生

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

1 単元名 1・2年「ただしことばをさがそう」 3・4年「すきを伝えよう夏祭り」  
5年「あたたかい土地のくらし」「寒い土地のくらし」 6年「天皇中心の国づくり」

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標と自立活動の配慮事項

| 学年   | 教科        | 目標  | 自立活動の配慮事項  |
|------|-----------|---|--|
| 1・2年 | 国語        | (1年)濁音・半濁音・促音・長音・拗音の書き方や読み方を理解し、文の中で使うことができる。<br>(2年)様子を表す言葉に気を付けて、場面や人物の様子を思い浮かべ、行動を具体的に想像することができ、それに対して感想をもち友達と伝え合う力を育む。また話や文章の中で使う語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。                                     | 区分4「環境の把握」——「感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動すること」<br>区分5「身体の動き」——「作業に必要な動作と円滑な進行に関すること」 |
| 3・4年 | 総合的な学習の時間 | 自分の好きなことや得意なことを活かし、それをお店やさんという形にすることを通して自分の長所を理解し、自己を肯定的に捉えられるようにするとともに、夏祭りのお店のリハーサルを経験し、振り返りの仕方を学ぶことで、自ら適切な行動を選択し、調整する力を育む。  | 区分3「人間関係の形成」(3)<br>自己の理解と行動の調整に関すること   |
| 5年   | 社会        | 我が国の国土の様子について、国土の気候に着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることであたたかい土地、寒い土地の自然などの様子や人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、我が国の国土の気候の概要や、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。 | 区分3「人間関係の形成」(1)<br>他者とのかかわりの基礎に関すること   |
| 6年   | 社会        | 我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、この頃の世の中の様子を捉え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。                 | 区分3「人間関係の調整」(2)<br>他者の意図や感情の理解に関すること   |

(2) 観点別評価規準

| 評価の観点  | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|--|---|---|---|
| 単元の<br>評価規準  | 1年  |   |   |
|  | ① 促音、濁音、長音、拗音の表記、助詞の「を」「へ」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使っている。  | ① 書くことにおいて語と語の続き方に注意している。   | ① 進んで促音や濁音、長音、拗音の言葉を見つけようとし、これまでの学習を生かして文を書こうとしている。   |
|  | 2年  |   |   |
|  | ① 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。   | ① 読むことにおいて、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。                                   | ① 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝えようとする。 |
|  | 3・4年  |   |   |
|  | ① 今までの生活から見付けたことや体験したり調べたりして気付いたことをから課題を見付けることができる。   | ① 自分の課題に合わせて情報を収集したり、関連付けたりして考えている。                                       | ① 目的や相手を考えながら伝えたいことを表現しようとしている。                       |
|  | 5年  |   |   |
| ① 国土の気候などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、国土の自然などの様子やあたたかい土地、寒い土地の人々の生活を理解している。<br>② 調べたことを図表や文などにまとめ、あたたかい土地や寒い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。 | ① 国土の気候などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子やあたたかい土地、寒い土地の人々の生活について考え、表現している。<br>② 我が国の位置や気候の側面から、我が国の国土の自然環境の特色を考えたり、あたたかい土地や寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考えたり、適切に表現している。 | ① あたたかい土地や寒い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。  |   |
| 6年   |   |   |   |
| ① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。<br>② 調べたことを年表や文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。                  | ① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について考え表現している。<br>② 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。                | ① 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 |   |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連と教材観

| 学年   | 学習指導要領との関連   | 教材観  |
|------|--|--|
| 1年   | 本単元はB「書くこと」C「読むこと」を中心に行っていく。語のまとまりや言葉の響きに気を付けて読むことや、文章の中の言葉を書き抜くことができるようにしていく。   | 一文字ずつのひらがなの学習が一通り終わったところである。表記が似ていてもことばの意味が違うことを知り、正しく読み分けることを楽しめる教材である。日常生活で見つけた表記の似ていることばを集め、語彙を増やすこともできる。   |
| 2年   | 本単元は、C（ウ）を中心に指導を行っていく。言語活動を遂行するために、叙述を基に想像を広げて読み、登場人物の気持ちや好きな場面を見つけられるように指導していく。単元の終末ではお互いの感想を伝えられるようにする。  | 本単元は場面の展開が、「スイミー」の行動や様子によって分かりやすく書かれている。また、魅力的な挿絵や表現から、好きな場面が選びやすくなっている。選んだ場面を友達と伝え合うことで内容理解を深めることや語彙を豊かにしていくことができる。   |
| 3・4年 | 本単元は、特別支援学校学習指導要領自立活動編 内容 3. 人間関係の形成（3）自己の理解と行動の調整に関することについて、構成したものである。  | 「夏祭り」（お店やさんごっこ）は、児童の大好きな活動である。ひまわり学級2組の児童は個性豊かな児童が多いが、自閉症の児童の場合「自分の長所や短所に興味が向きにくいなど、自分の理解が困難な場合がある。」と学習指導要領にも書かれている。今回は特に長所、好きなこと、得意なことに限定し、児童はどんなお店を開くかを考えることを通して自分の好きなことに気付いたり、自分がやりたいことを改めて認識したりすることができる。そして好きな活動ができるわくわく感とそれが達成できた時の成就感や達成感を味わうことで、児童の自己肯定感を高めることができると考えた。 |
| 5年   | 本単元は、内容（1）ア（ア）（イ）、イ（イ）に関する内容について、構成したものである。ここでは、我が国の地形や気候の特色の概要をふまえて、自分たちの住んでいる地域の自然環境とは大きく異なる沖縄県や北海道の特色ある気候条件を資料で調べ、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、そこに住む人々が自然条件の中で工夫しながら生活していることや、自然条件を生かして野菜や果物、花卉の栽培、酪農、観光などの産業を営んでいることなどを基に、我が国の国土の様子と国民生活について理解を深めることができる。 | 本単元の導入として、児童が、沖縄県や北海道の人々がその土地の自然条件を生かして工夫や努力をしながら生活していることに興味・関心をもてるように、特色あるくらしの様子を表した資料を提示する。その際、農業や観光などの産業、文化に視点がもてるように提示し、次時以降の学習につながるようにする。児童が各種の資料で調べる際には、教科書や資料集だけの情報にならないように、本学習に適したウェブサイトや図書館の本を活用できるようにする。   |
| 6年   | 本単元は、内容（2）ア（イ）に関する内容について、構成したものである。ここでは、「大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること」と示されている。  | 単元で扱う教材として、「陸奥国分寺（復元模型）」の写真から、当時の国分寺が立派で華麗な建築物だったことに気づき、聖武天皇の力が北海道や東北を除く日本全国に及んでいたことが理解できる。また、「正倉院の宝物」・「世界と日本をつなぐ交通路」からは、世界各地とつながり文化的な影響を受けていたことが理解できる。天皇の力が全国に及び、外国の文化的な影響を受けた時代であることが学ぶことができる教材である。  |

#### 4 児童について

本学級は将来の自立に向けて短期的目標や長期的目標を掲げ、実態に合った学習の支援を受けながら取り組むことで、成功体験を積み重ねている。一方で、自己肯定感が低く、集団で行動することが苦手な児童も少なくない。昨年度、実施したアンケートでは、協力することの大切さを感じられていない児童が約3割いることが分かる。児童が見通しをもち安心して参加できる視覚的支援、学習の流れの揭示の工夫、段階的に取り組める支援等により、自己肯定感や自尊感情を育むとともに、意図的なグループ設定やテーマ設定等により、人と関わる楽しさを感じられるようにしていく。

| 学年   | 実態   |
|------|--|
| 1・2年 | 1年生は感情のコントロールが難しい児童も数名おり、寄り添いつつ、学習のルールを教えているところである。2年生も同様のところがあるが、1年間の積み重ねがあり、集中して取り組めることが多くなっている。 |
| 3・4年 | 好きなことには集中して取り組むが、苦手なことや興味がないことには意欲を示さない児童もいる。  |
| 5年   | ICT機器を活用して調べ学習をしたり、調べたことをまとめたりしている。調べ方がわからない児童や漢字が読めない児童には個別に対応しながら学習を進めている。                       |
| 6年   | 歴史の学習に関心をもって取り組んでいる。互いの考えを発表し合って共有したり考えを深めたりする活動については、人間関係や児童一人一人の特性に合ったものに配慮して行う必要がある。            |

#### 5 研究主題に迫る具体的な手だて（わくわくポイント）

##### （1）単元のわくわくポイント

～教科指導の目標に自立活動（ビジョントレーニング）を取り入れた指導の充実を目指して～

全学年でビジョントレーニングを取り入れる。ビジョントレーニングとは、目でものの性質や状態を捉える力を高め、見たものを正しく認識し、自分の身体をイメージ通りに動かす機能を向上させるためのトレーニングである。主に、生活や学習上の困りごとを改善したり、スポーツのスキルアップを目指したりする目的で活用されている。ビジョントレーニングの「ビジョン」とは、視力だけではなく「ものを見る力（視覚機能）」全般を指し、「見る力」は大きく「視機能（入力）」「視知覚認知（情報処理）」「目と手の協応（出力）」の3つから成り立つ。本学級では自立活動の内容【6区分 27項目】を意識し、教科学習に合わせたビジョントレーニングを取り入れることで、児童の成長を支援すると共に学習効果の向上を目指している。

| 学年グループ | 本時のビジョントレーニングを活用する効果   |
|--------|--|
| 低学年    | 教科学習の基本となるビジョントレーニングで、意欲的に挑戦できるように内容を工夫し、良いところを大いに認め励ますことで自己肯定感を高めていけるようにする。また、国語で学習中の内容についてICTを活用したクイズ形式で問うことで、よく見る力を生かして、楽しく学習をすすめていく。   |
| 中学年    | 「夏祭りをする」というゴールを設定し、夏に関するものについてのビジョントレーニングを取り入れる。また、「夏祭り」のお店づくりについては意欲的に取り組めるように配慮する。   |
| 高学年    | 学習活動に絡めたビジョントレーニングを取り入れることで、児童の「くわしく知りたい」という意欲を引き出し、学習問題を設定する。その際に、複数の観点を示したマトリックス表から次時以降に追究する学習内容を選択すること、調べたことを表現方法を工夫して発表すること、単元の終末にまとめをすることなどを伝えることで、単元の見通しをもち、挑戦する意欲をもって学習に取り組めるようにする。 |

(2) 本時のわくわくポイント

- 1・2年：学習してきたことを ICT 機器を活用したクイズ形式で行うことで、周りと一緒に確認できることや挑戦する意欲を引き出しながら取り組めるようにする。
- 3・4年：リハーサルをし、実際に友だち（お客さん）と関わることを通して他者受容をするとともにお店のやり方を見直すことで、本番の夏祭りに向けて意欲をもって取り組めるようにする。
- 5年：沖縄県や北海道の人々のくらしに関する資料について ICT 機器を活用してビジョントレーニングを行った後、マトリックスなどで次時以降の学習の見通しをもつことで、挑戦する意欲をもって学習に取り組めるようにする。
- 6年：大仏造りに込められた願いや人々の協力などについて、具体的なイメージをもって調べること、挑戦する意欲をもって学習に取り組めるようにする。

自立活動の内容【6区分 27項目】

| 区分          | 項目  |
|-------------|---|
| 1 健康の保持     | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。</li> <li>(2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。</li> <li>(3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。</li> <li>(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。</li> <li>(5) 健康状態の維持・改善に関する事。</li> </ul>                          |
| 2 心理的な安定    | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 情緒の安定に関する事。</li> <li>(2) 状況の理解と変化への対応に関する事。</li> <li>(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。</li> </ul>   |
| 3 人間関係の形成   | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。</li> <li>(2) 他者の意図や感情の理解に関する事。</li> <li>(3) 自己の理解と行動の調整に関する事。</li> <li>(4) 集団への参加の基礎に関する事。</li> </ul>  |
| 4 環境の把握     | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保有する感覚の活用に関する事。</li> <li>(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。</li> <li>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。</li> <li>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。</li> <li>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。</li> </ul> |
| 5 身体の動き     | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。</li> <li>(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。</li> <li>(3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。</li> <li>(4) 身体の移動能力に関する事。</li> <li>(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。</li> </ul>                          |
| 6 コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。</li> <li>(2) 言語の受容と表出に関する事。</li> <li>(3) 言語の形成と活用に関する事。</li> <li>(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。</li> <li>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。</li> </ul>                             |

6 単元の指導計画と評価計画及び児童のわくわく

★「学び続ける力」の重点項目：挑戦・ポジティブ★

教科名 国語

単元名 「ことばクイズをたのしもう」  
単元名「ただしことばをさがそう」

8 時間扱い

|             | 教師による提示   |  | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）   |   | 振り返りの時間 |
|-------------|---|--|---|---|---------|
|             | 見通す   | 選択する   | 見直す   | 振り返る  |         |
| ね<br>ら<br>い | 第1時：「かきとかぎ」を唱え、リズムや言葉のおもしろさに気付く。<br><br>第2時：濁音、半濁音のある言葉クイズを楽しむ。（クイズの答え方を知る。）  | 第3時：「ねことねっこ」など促音の表記と発音の違いに気付き、どちらが正しいか考える。<br><br>第4時：「おばさんとおばあさん」など長音のある言葉の書き表し方や読み方に慣れ、どちらが正しいか考える。<br><br>第5時：「おもちゃとおもちゃ」など拗音のある表記との言葉の意味の違いを見付け、どちらが正しいか考える。 | 第6時：第1回「ことばクイズ」を楽しむ。今まで学習した似た言葉から正しい方を選んで挙手をする。（スライドをよく見て、挙手をする。ビジョン）<br><br>第7時：第2回「ことばクイズ」を楽しむ。今まで学習した似た言葉から正しい方を選んで挙手をする。（スライドをよく見て、挙手をする。ビジョントレーニングを行う） | 第8時：単元の学習を振り返り、ことばの楽しさに気付く。正しい言葉を選んで文を書いていこうとする意欲をもつ。<br><br>他にもないか自分でも作ってみる。 |         |
|             | 「評価（方法）」  | 第1時【知・技①（発言）】<br><br>第2時【主①（発言・行動観察）】  | 第3～5時【知・技①（発言、ノート）】<br><br>第6～7時【知・技①（発言・観察）】   | 第8時【主①（発言・行動観察）】<br><br>【思・判・表（ノート）】  |         |
| 児童のわくわく     | 単元のわくわく：「ことばクイズ」がたのしみ！  |  |   |   |         |
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばクイズってどんなことをするんだろう？</li> <li>・似ているのに意味が違っておもしろい。</li> <li>・クイズ正解、がんばるぞ。</li> <li>・他にもあるかな。自分で作って、友達にやってもらおう。</li> </ul> |  |   |   |         |

6 単元の指導計画と評価計画及び児童のわくわく

★「学び続ける力」の重点項目：挑戦・ポジティブ★

教科名 国語 単元名 単元名「ただしいことばをさがそう」  
「スイミー」 9 時間扱い

|                                      | 教師による提示  | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）   |  | 振り返りの時間                 |
|--------------------------------------|--|---|--|-------------------------|
|                                      | 見通す  | 選択する  | 見直す  | 振り返る                    |
| ね<br>ら<br>い                          | 第1時：本文を読んで内容の大体を理解する。また新出漢字の読み方や意味を確かめる。<br><br>第2・3時：物語には場面があることを知り、場面ごとの内容を整理する。   | 第4時：登場人物の行動や出来事を中心に、話の流れを確かめる。<br><br>第5時：場面の様子や「スイミー」の話し方からなど言葉に着目する。<br><br>第6時：「スイミー」の好きな場面を選び、理由を考える。 | 第7時：好きな場面とそのわけをノートにまとめる。<br>(ICTを活用したビジョントレーニングを行う)<br><br>第8時：まとめた文章を基に、感想を交流する。<br>(ICTを活用したビジョントレーニングを行う) | 第9時：学習を振り返り、学んだことをまとめる。 |
| 「<br>評<br>価<br>（<br>方<br>法<br>）<br>」 | 第1～3時<br>【知・技①】（記述・発言）   | 第4時【知・技①】（発言・記述）<br>第5～6時【思・判・表①】（観察・記述） 【主①】（発言）<br>第7～8時【知・技①】 【思・判・表①】（発言・記述）                          |  | 第9時<br>【主①】（発言・記述）      |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く      | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">                     単元のわくわく：好きな場面を伝え合うこと・物語のクイズ                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の好きな場面を聞いて、新しい面白さが分かった。</li> <li>・ 場面演技をすることで楽しく、内容を覚えることができた。                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よく音読して覚えたことで、クイズに正解できた。</li> <li>・ クイズを外してしまったが、何も挑戦して最後は正解することができてうれしい。</li> </ul> </li> </ul> |   |  |                         |



6 単元の指導計画と評価計画及び児童のわくわく

★「学び続ける力」の重点項目：他者受容★

教科名 総合的な学習の時間 単元名 すきを伝えよう夏祭り 6 時間扱い

| 教師による提示                         |  | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）   |  | 振り返りの時間  |
|---------------------------------|--|---|--|--|
| 見通す                             |  | 選択する  | 見直す  | 振り返る   |
| ね<br>ら<br>い                     | 第1時：学習の流れをつかみ、マトリックス表を使って自分の好きなことや得意なこと、やりたいことについて考え、書くことができる。   | 第2時：マトリックス表を基に夏祭りで行うお店を選び、計画を立てることができる。<br>第3・4時：計画に沿ってお店やさんの準備をする。 | 第5時：夏祭りで行うお店のリハーサルをすることを通して自分のお店やり方を見直すことができる。 | 第6時：夏祭り本番でお店やさん、お客さんの両方を体験して楽しむとともに、活動全体を振り返る。 |
|                                 | 第1時：【知・技①】<br>(記述・発言)  | 第2時～4時：【思・判・表①】<br>(発言、制作物)   | 第5時：【主①】 (行動、記述)                               | 第6時：【主①】 (行動、記述)                               |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     単元のわくわく：自分の好きなこと、得意なこと、やりたいことに気付き自己理解を深め、それを表現することを楽しむ。                 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">                     ・自分の好きなこと、得意なこと、やりたいことについて何だろう。                 </div> <div style="width: 30%;">                     ・お店の計画をたてて、準備しよう。                 </div> <div style="width: 30%;">                     ・どんな工夫ができるかな。                 </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">                     ・夏祭り本番を楽しもう。                 </div> |   |  |  |

7 本時の指導（3・4年：5／6時）【見通す・選択する **見直す**・振り返る】

(1) 本時の目標

ひまわり2組の夏祭りで行うお店のリハーサルをすることを通して、自分のお店のやり方を見直すことができる。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動<br>・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価 ★わくわく<br>ポイント【自】自立活動の配慮事項   | ビジョン<br>トレーニング                             |
|------|---|--|--|
| 見通す  | <p>○挨拶・学習の流れを確認する。</p> <p>○ビジョントレーニングをする。<br/>・眼だけで数えられたよ。<br/>・好きなのは、こちらかな。<br/>○めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて：お店のリハーサルをして、お店のやり方を工夫しよう。</div> | <p>□学習の見通しをもてるように確認する。</p> <p>【自】夏に関するもの、好きかなものを選ぶ内容にする。</p> <p>□何のためにリハーサルをするのかを考えさせる。</p>  | <p>眼と体のチームワーク<br/>(眼からの情報に合わせて体を動かす練習)</p> |
| 選択する | <p>○それぞれのお店を開く準備をする。</p> <p>○前半グループがお店を開く。<br/>・このお店すごいなあ。<br/>・来てもらえるように大きな声で宣伝しよう。<br/>○後半グループがお店を開く。</p>   | <p>★リハーサルをしてお客さんを意識したお店のやり方を工夫する。《他者受容》</p> <p>【自】お店やさんとしてのやりとりを通して、人のかかわり方を学ぶ。<br/>(区分3人間関係の形成)</p>                               |  |
| 見直す  | <p>○この時間の活動の振り返りをする。<br/>・笑顔で声をかけたよ。<br/>・「ありがとう」って言ってもらえて嬉しかったから、次は自分も言いたいな。<br/>・もっと商品を増やそうかな。</p>  | <p>□ワークシートを使い、お店やさんとして、お客さんとしてどうだったか振り返ることができるようにする。また、本番ではどのようにしたいかについても考えさせる。</p> <p>◇目的や相手を考えながら自分のお店を見直すことができる。【主①（行動・記述）】</p> |  |
| 振り返る | <p>○この時間のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">まとめ：この時間の振り返りを本番にいかそう。</div>   | <p>□次時の予告をする。</p>  |  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

6 単元の指導計画と評価計画及び児童のわくわく

★「学び続ける力」の重点項目：挑戦★

教科名

社会

単元名

あたたかい土地の暮らし・寒い土地の暮らし

7

時間扱い

|                                 | 教師による提示   | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）   |   | 振り返りの時間   |
|---------------------------------|---|---|---|---|
|                                 | 見通す   | 選択する  | 見直す   | 振り返る  |
| ね<br>ら<br>い                     | 第1時：沖縄県や北海道の人々が気候の特色を生かして生活している様子を表した資料から気付きや疑問を基に、学習問題を設定する。   | 第2～4時：マトリックスを基に、個々が学習内容を選択して学習計画を立て、教科書や資料集、インターネット、関連図書等を活用したり、友達と協働したりして調べたことをまとめる。 | 第5・6時：学級全体で発表することを通して、調べて分かったことを共有したり、内容について話し合ったりして、国土の自然環境の特色やその土地の人々の生活について理解を深める。 | 第7時：沖縄県や北海道の暮らしについて考えたことを話し合い、学習問題に対する考えをまとめる。本小単元の学びを振り返る。 |
| 〔評価（方法）〕                        | 第1時<br>【思・判・表①（記述・発言）】<br>【主①（記述・発言）】   | 第2～4時<br>【知・技①（記述）】<br>【思・判・表①（記述・発言）】  | 第5・6時<br>【知・技②（記述・発言）】  | 第7時<br>【思・判・表②（記述・発言）】                                      |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く | <p>単元のわくわく：沖縄県や北海道に住む人々の暮らしの特色をくわしく知りたい！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県や北海道の暮らしの様子って東京都とは違う！もっとくわしく知りたいな。</li> <li>関連した本やインターネットを使ってじっくり調べよう！友達と一緒に調べたいな！</li> <li>調べた内容を友達と一緒にどのように発表しようかな。他のグループはどのようなことを発表するのか楽しみだ！</li> <li>あたたかい土地や寒い土地の人々の暮らしについて、クラスみんなと考えたことを話し合いたい！</li> </ul> |   |   |   |

7 本時の指導（5年：1／7時）【見通す・**選択する**・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

沖縄県や北海道の人々が気候の特色を生かして生活している様子に関心をもち、学習問題を設定する。

(2) 本時の展開

|                                       | ○主な学習活動<br>・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価 ★わくわくポイント 【自】自立活動の配慮事項  | ビジョン<br>トレーニング                     |
|---------------------------------------|---|--|------------------------------------|
| 見通す                                   | ○前小単元の学習を振り返る。  | □画像資料を用いて、視覚的に学習を振り返られるようにする。  |                                    |
| めあて：沖縄県と北海道の人々のくらしの様子について話し合おう。       |   |  |                                    |
|                                       | ○沖縄県と北海道のくらしの様子を表した資料を見る。   | □日本の南北の気候が分かりやすい代表地として、沖縄県と北海道を扱う。   | 眼と体のチームワーク<br>(眼からの情報に合わせて体を動かす練習) |
| 選択する                                  | ○数種類ある沖縄県や北海道のくらしに関する資料を一枚選び、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。<br>(沖縄県の資料について)<br>・暑さや水不足に備えているのかな。<br>・きれいな海だな。多くの観光客が来るのかな。<br>(北海道の資料について)<br>・寒さや雪に備えた工夫がある。<br>・雪を生かした観光にはどんなものがあるのかな。 | □次時以降の学習に繋がる観点を映した資料を扱う。<br>★異なる資料から考えることで、少人数で話し合い、学習への意欲を高められるようにする。《挑戦》<br>◇国土の気候などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子やあたたかい土地、寒い土地の人々の生活について考え表現している。<br>【思・判・表①（記述・発言）】 | 追従性眼球運動<br>(見たいものに視線を合わせる練習)       |
| 見直す                                   | ○問いをマトリックス図に整理し、学習問題を設定する。  | 【自】学習を通して考えたことを、友達と話し合うことで、多様な考えから学びを深められる。(区分3人間関係の形成)  |                                    |
| 学習問題：沖縄県や北海道の人々のくらしにはどのような工夫があるのだろうか。 |   |  |                                    |
| 振り返る                                  | ○本小単元の学びを振り返る。  | ★学習内容を選択するマトリックスや、次時以降の見通しを示すことで、児童が挑戦する意欲をもって学習できるようにする。《挑戦》  |                                    |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

6 単元の指導計画と評価計画及び児童のわくわく

★「学び続ける力」の重点項目：挑戦★

教科名 **社会**

単元名 **天皇中心の国づくり**

**6** 時間扱い

| 教師による提示                         |   | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）  |   | 振り返りの時間                                  |
|---------------------------------|---|--|---|--|
| 見通す                             |   | 選択する   | 見直す   | 振り返る                                     |
| ね<br>ら<br>い                     | 第1時：聖徳太子が隋や国内に対して行った取組の目的を考え、その後誰がどのように継いでいったのかを調べる学習問題を作り、学習計画を立てる。  | 第2・3時：中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇の政治を調べることを通して、天皇中心の国づくりが進められたことを理解する。 | 第4・5時：大仏造りや正倉院宝物・遣唐使などについて調べ、多くの人々の力で大仏が完成したことや大陸に影響を受けた文化が栄えたことを理解する。  | 第6時：天皇中心の国づくりについて、それぞれの立場の人物の働きを考え、表現する。 |
|                                 | 第1時【知・技①（発言）】<br>【主①（発言）】   | 第2～5時【知・技①（記述・発言）】   |   | 第6時【思・判・表②（発言）】<br>【知・技②（記述）】            |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く | 単元のわくわく： 建造物や作品から、聖徳太子や天皇の力の大きさを知れたらいいな！  |  |   |  |
|                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>聖徳太子の残した業績やお札への登場のすごさを考えたい！</li> <li>実物の大きさはどのくらいか具体的に考えたい！</li> </ul> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な学び方（教科書・資料集・動画・HP・質問）ができる！</li> <li>自分の興味関心をより深め、さらに追究できる！</li> </ul> |  |

7 本時の指導（6年：4／6時）【見通す・選択する・**見直す**・振り返る】

(1) 本時の目標

大仏造りに込められた願いや人々の協力などについて調べることを通して、多くの人々の力で大仏が完成したことを理解する。

(2) 本時の展開

|                                | ○主な学習活動<br>・予想される児童の反応   | □指導上の留意点 ◇評価 ★わくわくポイント 【自】自立活動の配慮事項   | ビジョン<br>トレーニング               |
|--------------------------------|--|---|------------------------------|
| 見通す                            | ○大仏の大きさを体感する。<br>・大仏の実際の手指の長さ<br>と自分の身長を比べたらやはり大仏は大きい。<br>・大仏の座高は校舎の何階分なのかな。<br><br>○巨大な大仏を造ることへの疑問をもつ。                              | □大仏の左手の長さを黒板に示す。<br>★大仏の実際の大きさを具体的にイメージできるようにすることで、児童が関心を高めて学習に入ることができるようにする。《挑戦》                                       | 追従性眼球運動<br>(見たいものに視線を合わせる練習) |
| めあて：聖武天皇の大仏造りがどのように進められたか調べよう。 |  |   |                              |
| 選択する                           | ○大仏を造るために必要なものについて考える。<br>・金属 ・造る施設（工場）<br>・工具 ・働く人々<br>・造り方を知る人<br><br>○それぞれについて、資料から調べる。<br>(教科書・資料集から)                            | ★具体的に造営に関わる人を考えさせることで、児童が大仏造営に必要なもののスケールの大きさをイメージできるようにする。《挑戦》<br><br>【自】資料から読み取ったことを伝え合い、仲間の読み取った結果を共有する。(区分3 人間関係の形成) | 追従性眼球運動<br>(見たいものに視線を合わせる練習) |
| 見直す                            | ○行基について知る。<br>・大仏造りに協力した百済の僧である。<br><br>○聖武天皇の詔や、開眼式の様子から、聖武天皇の願いが人々にも理解されて成し得た大事業であったことを理解する。<br>・聖武天皇は人々が安心して暮らせるようにと願っていたことが分かった。 | ◇世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を理解している。【知・技①（発言・記述）】                            |                              |
| 振り返る                           | まとめ：国内外の多くの人々が大仏造りに協力し、大仏が完成した。  |   |                              |
|                                | ○振り返りを行う。  | □個人の振り返りが、学習内容や学習方法について書けるとよいことを伝える。  |                              |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

## 第4学年理科学習指導案

第4学年 1組 2組 3組  
指導者 太田麻沙子 上野真広 野場志保

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24－28の具現化を目指して～

#### 1 単元名「電流のはたらき」

#### 2 単元の目標と観点別評価規準

##### (1) 目標

電流の大きさや向き、乾電池につないだ物の様子に着目して、それらを関係付けて、電流の働きを調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

##### (2) 観点別評価規準

| 評価の観点       | 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度                                    |
|-------------|--|--|--|
| 単元の<br>評価規準 | ① 乾電池の数やつなぎ方を変えると、電流の大きさや向きが変わり、豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを理解している。     | ① 電流の働きについて、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。            | ① 電流の働きについての事物・現象にすすんで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 |
|             | ② 電流の働きについて、乾電池や豆電球などの器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 | ② 電流の働きについて、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 | ② 電流の働きについて学んだことを学習や生活に生かそうとしている。                |
|             |  | ③ 電流の働きについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。      |  |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本単元は、第3学年「A (5) 電気の通り道」の学習を踏まえて、「エネルギー」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「エネルギーの変換と保存」に関わるものであり、第5学年「A (3) 電流がつくる磁力」の学習につながるものであることが示されている。

#### (2) 教材について

本単元では、単元を通して車を活用していく。導入の活動で、乾電池の向きをあえて指示しないことで、子どもたちの車は前後ばらばらに動いていく。そのため、子どもたちが自ら問題を見いだすことができる。また、「車をもっと速く動かしたい。」と考える児童が出てくることも想定できるため、車を速く動かす方法に着目し、根拠のある予想をしやすい問題も設定できる。さらに、乾電池の数を増やしたり、回路のつなぎ方を変えたり、豆電球の明るさやプロペラの飛び方を調べたりするなど、多様な実験を試行錯誤しながら行うことも期待できる。このことを通し、児童が試行錯誤しながら実験を行い、粘り強く問題を解決する力を育むことを目指していく。

### 4 児童について (学年)

本学年の児童は、自然の事物・現象に対する興味・関心が高く、体験的な活動が多い理科の学習に意欲的に取り組んでいる。観察・実験の場面においては、気付いたことに素直に驚いたり、「なぜだろう」とすすんで考えたりすることができる。しかし、学習わくわくアンケートや児童の実態を見ると、観察・実験以外の問題解決の場面においては、手が止まり、苦手意識をもっている児童もいる。そこで、自分の車を十分に操作する場を用意することで、友達の手との走り方の違いを見付けられるようにしていく。そして、活動を通して生じた、児童の「もっと車を速く走らせたいたい！」という思いを大切にすることで、根拠のある予想を発想し、粘り強く問題解決できる姿を目指していく。

### 5 研究主題に迫る具体的な手だて (わくわくポイント)

#### (1) 単元のわくわくポイント

本単元では一人1台車を使って実験していく。見通しをもたせる導入の工夫をするために、共通体験を大切にし、同じ車を使っても動かなかったり、車が進む方向が逆だったりする現象から、児童が電気を利用して車が走る仕組みに興味・関心をもつことが期待できる。また、車を速く走らせるために、乾電池を2つ使用する。その際に、自分の車を操作し、試行錯誤しながら回路をつくったり、複数の実験方法で電流を大きくする方法を調べたりすることができるので、児童は粘り強く実験に取り組み、問題解決をしていくと考えられる。これらの活動から、「車を前に走らせたいたい!」、「車を速く走らせたいたい!」という児童のわくわく感が生じ、問題を解決するために、より粘り強く取り組んでいくことが期待できる。

#### (2) 本時のわくわくポイント

- 3組：共通体験の際に、あえて乾電池を入れる向きの指示を出さないことで、児童が事象に興味・関心をもち、主体的に問題解決に挑戦できるようにする。
- 2組：一人一実験で乾電池や豆電球を十分に操作する時間を確保することで、児童が粘り強く問題解決に向き合えるようにする。
- 1組：自分が選んだ方法で見通しをもって実験することを通して、児童が粘り強く問題解決に向き合えるようにする。

教科名

理科

単元名

電流のはたらき

11

時間扱い

|                                      | 教師による提示  | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）   |   | 振り返りの時間   |
|--------------------------------------|--|---|---|---|
|                                      | 見通す  | 選択する  | 見直す   | 振り返る  |
| ね<br>ら<br>い                          | 第1・2時：車を作り、走らせることで電気の力に興味・関心を持ち、学習問題をつくる。<br><br>第8時：車が速くなった理由を考える。  | 第3時：車の走る向きが前後に異なる理由を予想し、実験計画を立てる。<br><br>第5時：車を速く走らせる方法を予想し、実験計画を立てる。<br><br>第7時：第6時を基に、自分が行いたい実験を選択し、実験を行う。<br><br>第8時：予想を基に、実験方法を考える。 | 第4時：実験をし、結果から分かることを考察し、予想があっていたかを見直す。<br><br>第6時：試行錯誤しながら、乾電池2つで回路をつくり、豆電球を明るくする方法を考える。<br><br>第7時：結果から分かったことを考察する。<br><br>第9時：実験を行い、結果から分かることを考察する。          | 第4時：結論を導き出す。<br><br>第7時：結論を導き出し、新たな疑問をもつ。<br><br>第9時：結論を導き出し、単元の自己の学びを振り返る。<br><br>第10・11時：おもちゃを作り、遊ぶことを通して、単元の学びを振り返る。 |
| 〔<br>評<br>価<br>（<br>方<br>法<br>）<br>〕 | 第1時【主①（ノート・発言・様子観察）】<br>第2時【思・判・表①（発言・ノート）】<br>第8時【主①（ノート・発言・様子観察）】  | 第3時【思・判・表②（発言・ノート）】<br>第5時【思・判・表②（発言・ノート）】  | 第6時【知・技②（ノート）】<br>第7時【思・判・表③（発言・ノート）】   | 第4時【知・技①（ノート）】<br>第9時【知・技①（ノート）】<br>第10・11時【主②（ノート・発言・様子観察）】  |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く      | 単元わくわく：車を前向きに、もっと速く走らせたい！  |   |   |   |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・車が走る向きが違う！</li> <li>・車をもっと速く走らせたい！</li> <li>・検流計を使えば、電気が大きくなったことを調べられる？</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん実験したら予想通りだった！問題を解決できて楽しい！</li> <li>・どの方法なら自分の予想を確かめられるかな…。</li> <li>・車を完成させて、思った通りに走らせられたから、勉強が役立ってるな！</li> </ul> |   |

7 本時の指導（3組：2／11時）【見通す】選択する・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

電流の働きについて、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決する。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応   | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|------|---|---|
| 見通す  | <p>○明かりのつけ方と3年生の学習を思い出し、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて：乾電池で走る車を走らせ、学習問題をつくろう。</p> </div> <p>・明かりを点けるだけでなく、他の物も乾電池で動かしてみたいな。<br/>・乾電池を使って動くものはたくさんあるね。<br/>・モーターが入っている車を作ったことがあるよ。</p> | <p>□3年生ではどんな学習をしたのか想起させ、本時のめあてを確認する。</p> <p>□生活経験や今までの既習を生かしながら考えるよう助言する。</p>   |
| 選択する | <p>○車を走らせる。</p> <p>・車が速く走らせることができた。<br/>・車の走る向きが逆になったよ。<br/>・乾電池の向きを変えると、電気の流れる向きが変わるかもしれないな。</p>   | <p>□つなぎ方がうまくいかない児童のために、3年生の学習で使った豆電球が点かなかった時のポイントを掲示し、確認しやすいようにする。</p> <p>◇電流の働きについて、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決する。</p> <p style="text-align: center;">【思・判・表①（発言・記述）】</p> <p>★共通体験の際に、敢えて乾電池を入れる向きの指示を出さないことで、児童が事象に興味・関心を持ち、主体的に問題解決に挑戦できるようにする。      《挑戦》</p> |
| 見直す  | <p>○実験結果を共有する。<br/>○共通点、差異点やもっとやってみたいことを基に学習問題を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>問題① 車が逆に走ってしまうのはなぜだろう。<br/>問題② 速く走らせるためにはどうしたらいいのかな。</p> </div>   |   |
| 振り返る | <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>・早く走る車を作ってみたい。<br/>・なぜ、逆に走ってしまうのか確かめてみたいな。<br/>・乾電池の向きに関係があるのかな。</p>   | <p>□次時への見通しがもつことができるよう、児童の考えを基に、電気の流れる向きや大きさの分かるものを使って実際に調べることを伝える。</p>   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

7 本時の指導（2組：6／11時）【見通す・**選択する**・**見直す** 振り返る】

(1) 本時の目標

乾電池や豆電球などの器具や機器を正しく扱いながら調べることを通して、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録する。

(2) 本時の展開

|           | ○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応   | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント  |     |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |  |
|-----------|--|--|-----|--|--|-----------|--|--|--|-----------|--|--|--|-----------|--|--|--|--|
| 見通す       | <p>○前時の学習を振り返り、どのように乾電池をつなげば、車を早く走らせることができるか、自分の実験方法を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて：車を速く走らせるための乾電池のつなぎ方を、豆電球を使って調べ、実験結果をまとめよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾電池を2個縦につなごう。</li> <li>・乾電池のつなぎ方にもいろいろな方法がありそうだ。</li> </ul>   | <p>□学習の流れを明確にし、実験結果をまとめることが本時のめあてであることを明確にする。</p> <p>□乾電池のつなぎ方をピックアップするために、本時は豆電球で実験をすることを伝える。</p> |     |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |  |
| 選択する      | <p>○実験をしながら、乾電池のつなぎ方による豆電球の光り方の違いを記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾電池2個をまっすぐにつなげたら、乾電池1個の時と比べて、豆電球が明るくなった。</li> <li>・乾電池を横につなげたら、あまり変化がなかった。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td>豆電球</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>乾電池<br/>一個</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>直列<br/>つなぎ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>並列<br/>つなぎ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> |  | 豆電球 |  |  | 乾電池<br>一個 |  |  |  | 直列<br>つなぎ |  |  |  | 並列<br>つなぎ |  |  |  | <p>□乾電池のつなぎ方と豆電球の光り方をノートに記録し、クロムブックで写真を撮るように伝える。</p> <p>□直列つなぎのみの場合は、「まっすぐ」という言葉を取り上げ、「横」につなげることに思考が向くよう助言する。</p> <p>◇電流の働きについて、乾電池や豆電球などの器具や機器を正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。【知・技②（記述）】</p> <p>★一人一実験で乾電池や豆電球を十分に操作する時間を確保することで、児童が粘り強く問題解決に向き合えるようにする。《粘り強さ》</p> |
|           | 豆電球  |  |     |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |  |
| 乾電池<br>一個 |  |  |     |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |  |
| 直列<br>つなぎ |  |  |     |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |  |
| 並列<br>つなぎ |  |  |     |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |  |
| 見直す       | <p>○実験結果を共有する。</p> <p>○FigJamの写真を基に、自分の手元で実験結果を再度確認する。</p>   | <p>□回路図を描き、FigJamで自分の実験結果の写真を整理することを通して、実験結果を共有しやすくする。</p> <p>□乾電池のつなぎ方をマトリックスの縦軸に設定する。</p>        |     |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |  |
| 振り返る      | <p>○「直列つなぎ」、「並列つなぎ」という言葉を知り、次時の計画を立て、本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直列つなぎにしたら、豆電球が明るくなったから、車も速く走るはずだ。</li> </ul>  | <p>□マトリックスの横軸に、豆電球を書き込むとともに、車の走る速さ、プロペラの飛ぶ高さを書き込み、児童が次時の見通しをもてるようにする。</p>                          |     |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |           |  |  |  |  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

7 本時の指導（1組：7/11時）【見通す・**選択する**・**見直す**・**振り返る**】

(1) 本時の目標

電流の働きについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決する。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|------|---|---|
| 見通す  | <p>○前時の学習を振り返り、自分の選択した実験を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて：自分の選んだ実験を通して結果から考察し、結論をまとめよう。</div> <p><b>選択1</b> 車を走らせる。<br/>・車が速く走るつなぎ方を見ればよい。</p> <p><b>選択2</b> プロペラを飛ばす。<br/>・プロペラが高く飛ぶつなぎ方を見ればよい。</p>                              | <p>□学習の流れを明確にし、実験のマトリックスを提示しておく。</p> <p>□それぞれの実験で、何に注目して結果を見ればよいかを確かめる。</p>   |
| 選択する | <p>○実験をし、直列つなぎと、並列つなぎの結果を記録する。</p> <p>・直列つなぎは、乾電池1個の時と比べて、車は速く走った。プロペラは高く飛んだ。</p> <p>・並列つなぎは、乾電池1個の時と比べて、車の速さはあまり変わらなかった。プロペラの飛ぶ高さはあまり変わらなかった。</p>  | <p>□別教室へ移動して実験する。</p> <p>□周囲を確認して、間隔を確保してから安全に実験を行うよう声掛けする。</p> <p>□調べ方は、個人でも、友達と比較しながらでもよいことを伝える。</p> <p>□実験をしたら、その場で結果を記録するよう指導する。</p>  |
| 見直す  | <p>○実験結果を共有する。</p> <p>○マトリックスの結果を基に、2つの実験結果から、考察する。</p> <p>・車を速く走らせたり、プロペラを高く飛ばしたりするには、直列つなぎにすればよい。</p> <p>・直列つなぎと並列つなぎの結果の違いは、何が関係しているのか調べたい。</p> <p>○電流のはたらきについて結論付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">まとめ：車を速く走らせるには、直列つなぎにすればよい。</div> | <p>□それぞれの結果をマトリックスに書き入れる。</p> <p>□早くまとめた児童には、直列つなぎと並列つなぎの結果の違いの要因について投げ掛け、考えさせる。</p> <p>◇電流の働きについて、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。【思・判・表③（発言・記述）】</p> <p>★自分が選んだ方法で見通しをもって実験することを通して、児童が粘り強く問題解決に向き合うことができるようにする。《粘り強さ》</p> |
| 振り返る | <p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>・どうして直列つなぎだと速く走るのか、調べたい。</p>   | <p>□直列つなぎと並列つなぎの結果の違いは、何によるものなのかに触れ、児童が次時の見通しをもてるようにする。</p>   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

## 第5学年社会科学学習指導案

第5学年 3組 4組  
指導者 青木 奈々 川上 博行

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

1 単元名「あたたかい土地の暮らし」「寒い土地の暮らし」

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

我が国の国土の様子と国民生活について、国土の気候などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、あたたかい土地や寒い土地の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

| 評価の観点   | 知識・技能  | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---------|--|--|--|
| 単元の評価規準 | ① 我が国の国土の様子と国民生活について地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、あたたかい土地や寒い土地の人々の生活を理解している。 | ① 国土の気候などに着目して、問いを見だし、あたたかい土地や寒い土地の人々の生活について考え表現している。            | ① あたたかい土地や寒い土地の暮らしについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 |
|         | ② 調べたことを図表や文などにまとめ、あたたかい土地や寒い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。                   | ② あたたかい土地や寒い土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。 |  |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本小単元は、内容(1)ア(ア)(イ)イ(イ)に関する内容について、構成したものである。ここでは、我が国の地形や気候の特色の概要をふまえて、自分たちの住んでいる地域の自然環境とは大きく異なる沖縄県や北海道の特色ある気候条件を各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現することを通して、そこにくらす気候を生かして野菜や果物、花卉の栽培、酪農、観光などの産業を営んでいることなどが分かるようにして、人々が自然環境に適応して生活していることを扱うことが示されている。

#### (2) 教材について

前小単元では、日本の国土の地形と気候の特色の概要について捉えた。それを踏まえて、本小単元では、「温暖多雨の地域や寒冷多雪の地域の人々は、自然環境に適応して生活していること」を中心概念とし、その代表的な地域として沖縄県と北海道を扱う。小単元の導入では、人々が自然条件を生かしながら、農業や観光などの産業、文化などの分野で工夫をして生活している様子の資料を提示し、児童の関心を高めたい。その後の展開で、各種の資料で調べる際には、教科書や資料集の情報だけでなく、本学習に適したウェブサイトや図書館の本を活用できるようにする。

### 4 児童について（学年）

本学年の児童は、昨年度より一部の内容で単元内自由進度学習に取り組んでいる。学習アンケートの結果より、学習問題を全体ではじめに設定し、計画を立て、ゴールを明確にすることで見通しをもって学習に取り組む児童が少しずつ増えてきた。しかし、少し消極的で、自分からすすんで学習に取り組んでいない児童が全体の1割以上いることは課題であるので、子どもの「知りたい」という意欲を引き出せるように工夫する。また、友達と協力して学習に取り組んだり、友達の考えをよく聞いて学ぼうとしたりしている児童は多いので、友達との交流を積極的に取り入れて授業を展開していく。

### 5 研究主題に迫る具体的な手だて（わくわくポイント）

#### (1) 単元のわくわくポイント

単元の導入で、沖縄県や北海道にくらす人々が、その土地の自然条件に適応して工夫や努力をしている様子を資料で示すことで、児童の「くわしく知りたい」という意欲を引き出し、学習問題を設定する。その際に、それぞれの土地に対して複数の観点を示したマトリックスから次時以降に追究する学習内容を選択すること、調べたことを友達と一緒に表現方法を工夫して発表すること、単元の終末に学習問題のまとめをすることを伝えることで、単元の見通しをもち、挑戦する意欲をもって学習に取り組めるようにする。また、調べた内容を友達と一緒に発表するためには、友達との話し合い、内容を調整する必要がある。友達との協働的な学びの中で、協調性を育む機会にしたい。

#### (2) 本時のわくわくポイント

3組：沖縄県や北海道の人々のくらしに関する資料について、ICTを活用して話し合った後、マトリックス等で次時以降の学習の見通しをもつことで、挑戦する意欲をもって学習に取り組めるようにする。

4組：前時までには児童が選択し、調べた学習内容を、相手に伝わるように友達と工夫しながら発表することで、協調性を高められるようにする。

教科名

社会

単元名

あたたかい土地の暮らし・寒い土地の暮らし

7

時間扱い

| 教師による提示     |   | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）   |   | 振り返りの時間  |
|-------------|---|---|---|--|
| 見通す         |   | 選択する  | 見直す   | 振り返る   |
| ね<br>ら<br>い | 第1時：沖縄県や北海道の人々が気候の特色を生かして生活している様子を表した資料から気付きや疑問を基に、学習問題を設定する。   | 第2～4時：マトリックスを基に、個々が学習内容を選択して学習計画を立て、教科書や資料集、インターネット、関連図書等を活用したり、友達と協働したりして調べたことをまとめる。 | 第5・6時：学級全体で発表することを通して、調べて分かったことを共有したり、内容について話し合ったりして、国土の自然環境の特色やその土地の人々の生活について理解を深める。 | 第7時：沖縄県や北海道の暮らしについて考えたことを話し合い、学習問題に対する考えをまとめる。本単元の学びを振り返る。 |
|             | 【評価（方法）】<br>第1時<br>【思・判・表①（記述・発言）】<br>【主①（記述・発言）】   | 第2～4時<br>【知・技①（記述）】<br>【思・判・表①（記述・発言）】  | 第5・6時<br>【知・技②（記述・発言）】  | 第7時<br>【思・判・表②（記述・発言）】                                     |
| 児童のわくわく     | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     単元わくわく：沖縄県や北海道に住む人々の暮らしの特色をくわしく知りたい！                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県や北海道の暮らしの様子って東京都とは違う！<br/>もっとくわしく知りたいな。</li> <li>・関連した本やインターネットを使ってじっくり調べよう！<br/>友達と一緒に調べたいな！</li> <li>・調べた内容を友達と一緒にどのように発表しようかな。<br/>他のグループはどのようなことを発表するのか楽しみだ！</li> <li>・あたたかい土地や寒い土地の人々の暮らしについて、クラスのみんなと考えたことを話し合いたい！</li> </ul> |   |   |  |

7 本時の指導（3組：1／7時）【見通す】 選択する・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

沖縄県や北海道の人々が気候の特色を生かして生活している様子に関心を持ち、学習問題を設定する。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|------|--|---|
| 見通す  | <p>○前小単元の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は四季がある。つゆや台風のえいきょうがある。</li> <li>・日本は縦長で、南北の位置や地形によって、気候がずいぶん違う。</li> </ul> <p>○沖縄県や北海道のくらしの様子を表した資料やその土地に住む教師の友人からの動画を視聴する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄はあたたかそうだ。</li> <li>・北海道にはたくさん雪が積もっていて寒そうだ。</li> <li>・私たちの住んでいるところとは違う。</li> </ul>   | <p>□画像資料を用いて、視覚的に学習を振り返ることができるようにする。</p> <p>□日本の南北の気候が分かりやすい代表地として、沖縄県と北海道を扱う。</p> <p>★実際にその土地に住む人物からのメッセージを視聴することで、もっと知りたいという思いを引き出せるようにする。《挑戦》</p>                                  |
|      | <p>めあて：沖縄県や北海道の人々のくらしの様子について話し合おう。</p>   |   |
| 選択する | <p>○数種類ある沖縄県や北海道のくらしに関する資料を各グループが優先順位をつけて選び、時間内に気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。</p> <p>〈沖縄県の資料について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暑さや水不足に備えているのかな。</li> <li>・見たことない農作物を育てている。</li> <li>・きれいな海だな。多くの観光客が来るのかな。</li> </ul> <p>〈北海道の資料について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寒さや雪に備えた工夫がある。</li> <li>・雪を生かした観光にはどんなものがあるのかな。</li> <li>・この広い土地で何をつくっているのだろう。</li> </ul> | <p>□次時以降の学習に繋がる観点を映した資料を扱う。</p> <p>★各グループが異なる資料から考えることで、少人数で話し合い、学習への意欲を高められるようにする。《挑戦・協調性》</p> <p>◇国土の気候などに着目して、問いを見だし、国土の自然などの様子やあたたかい土地、寒い土地の人々の生活について考え表現している。【思・判・表①（記述・発言）】</p> |
| 見直す  | <p>○各グループからの問いをマトリックスに整理し、学習問題を設定する。</p>   |   |
|      | <p>学習問題：沖縄県や北海道の人々のくらしにはどのような工夫があるのだろう。</p>  |   |
| 振り返る | <p>○本時を振り返るとともに、次時以降の学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県や北海道の人たちのくらしに興味が出た。</li> <li>・特に農業について調べてみたい。</li> <li>・友達と一緒に発表するのが楽しみだな。</li> </ul>   | <p>★学習内容を選択するマトリックスや、次時以降の見直しを示すことで、児童が挑戦する意欲をもって学習できるようにする。《挑戦》</p> <p>◇あたたかい土地や寒い土地のくらしについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>【主①（記述）】</p>               |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

7 本時の指導（4組：6／7時）【見通す・選択する・**見直す**・振り返る】

(1) 本時の目標

学級全体での発表を通して、調べたことを共有したり、内容について話し合ったりして、国土の自然環境の特色やその土地の人々の生活に対する理解を深める。

(2) 本時の展開

|                                    | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
|------------------------------------|--|---|-----|-----|--------|-------------------|------------------|----|--------------------|-----------------|----|--------------|-------------------|----|----------------|------------------|--|
| 見通す                                | ○前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。<br>・今日は沖縄県のくらしについての発表だ。みんなはどのようなことを調べていたのだろう。わくわくするな。   | □学習の全体像を見直せるように、学習問題やマトリックスを振り返らせる。   |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
| めあて：沖縄県の人々のくらしの様子について分かったことをまとめよう。 |  |   |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
| 見直す                                | ○沖縄県の人々のくらしについて、発表グループごとに発表をする。また、発表内容について質問をしたり、それに答えたりしながらノートにまとめ、内容を見直す。<br>・私たちのグループは、沖縄県のくらしの様子について分かったことを、テレビ番組のように発表します。<br>・私たちのグループは、沖縄県の農業の様子について分かったことを、劇にして発表します。<br>・そうなんだ。自分たちが調べたことと関係があるな。<br>・防風林の説明がちょっとよく分からなかったのですが、もう少しくわしく教えてくださいませんか。   | □児童が発表方法を選択することで、主体的に内容を伝えられるようにする。<br><br>□発表内容が全体の理解につながるように、発表ごとに内容を整理する時間（発表タイム→質問タイム→まとめタイム）を設定する。<br><br>★友達と協働して調べたりまとめたりしたことを発表することができる。《協調性》 |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
|                                    | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>北海道</th> <th>沖縄県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>くらしの工夫</td> <td>二重まど 無落雪<br/>灯油タンク</td> <td>屋上のタンク<br/>防風林 石垣</td> </tr> <tr> <td>農業</td> <td>小麦 とうもろこし<br/>らく農 米</td> <td>さとうきび<br/>パイナップル</td> </tr> <tr> <td>観光</td> <td>雪まつり<br/>スキー場</td> <td>ビーチ 観光地<br/>さんごの白化</td> </tr> <tr> <td>文化</td> <td>アイヌの人々<br/>ウポポイ</td> <td>首里城 エイサー<br/>琉球舞踊</td> </tr> </tbody> </table> |   | 北海道 | 沖縄県 | くらしの工夫 | 二重まど 無落雪<br>灯油タンク | 屋上のタンク<br>防風林 石垣 | 農業 | 小麦 とうもろこし<br>らく農 米 | さとうきび<br>パイナップル | 観光 | 雪まつり<br>スキー場 | ビーチ 観光地<br>さんごの白化 | 文化 | アイヌの人々<br>ウポポイ | 首里城 エイサー<br>琉球舞踊 |  |
|                                    | 北海道  | 沖縄県   |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
| くらしの工夫                             | 二重まど 無落雪<br>灯油タンク  | 屋上のタンク<br>防風林 石垣  |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
| 農業                                 | 小麦 とうもろこし<br>らく農 米   | さとうきび<br>パイナップル   |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
| 観光                                 | 雪まつり<br>スキー場   | ビーチ 観光地<br>さんごの白化   |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
| 文化                                 | アイヌの人々<br>ウポポイ   | 首里城 エイサー<br>琉球舞踊  |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
|                                    | ○発表内容についてマトリックスで見直し、沖縄県のくらしについて分かったことを整理したり、再度調べたりしてノートにまとめる。<br>・友達が発表で言っていたことをもっとくわしく知りたいな。<br>・質問タイムでうまく答えられなかったことをもう一度調べてみよう。  | □発表グループとは異なる学習形態にし、対話的な学びが生まれやすいようにする。<br>◇調べたことを図表や文などにまとめ、あたたかい土地や寒い土地の人々が自然環境に適応して生活していることを理解している。<br>【知②（記述・発言）】                                  |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |
| 振り返る                               | ○本時の学びを振り返る。<br>・友達と協力して発表をし、内容をうまく伝えられた。<br>・友達の発表を聞くと、自分が調べたことと関係があって学びが深まった。  | □学び続ける力の重点項目《挑戦・協調性》について、自身の学習の取組を振り返ることができるようにする。  |     |     |        |                   |                  |    |                    |                 |    |              |                   |    |                |                  |  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

## 第5学年体育科学習指導案

第 5 学 年 2 組  
指 導 者 高 津 里 依

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

#### 1 単元名 ボール運動(ゴール型)「ハーフバスケット」

#### 2 単元の目標と観点別評価規準

##### (1) 目標

簡略化されたバスケットボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。また、運動の楽しさや喜びを味わいながら行い方を知り、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡略化されたゲームをすることができるようにするとともに、ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり考えたりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

##### (2) 観点別評価規準

| 評価の観点   | 知識・技能                                       | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度  |
|---------|---|---|--|
| 単元の評価規準 | ① ハーフバスケットの行い方やゲーム内でのよい動きについて、言ったり書いたりしている。 | ① クラスのみんなが楽しめるようなルールを考えている。                       | ① ルールやマナーを守り、仲間と助け合って練習やゲームに積極的に取り組もうとしている。          |
|         | ② パスやシュートなどの基本的なボール操作ができる。                  | ② 自己や仲間が行っていた動き方やボール操作、よい動きについて考えたことを友達に伝えている。    | ② ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。            |
|         | ③ 仲間からパスを受けることのできる場所や得点しやすい場所に動くことができる。     | ③ 自己や仲間の考えたことを他者に伝え、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり考えたりしている。 | ③ ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 |
|         |   |   | ④ 場や用具の安全に気を配っている。                                   |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本単元は、内容【E ボール運動(ゴール型)】に関する内容について、構成したものであり、運動の楽しさや喜びを味わいながら、その行い方を理解するとともに、ボール操作やボールを受けるための動きによって攻防する知識・技能を身に付けること、ルールを工夫したり自己やチームの課題を見付け、解決にしていくなかで、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること、すすんで運動に取り組み、ルールを守り助け合ったり、安全に気を配ったりすることの3つを扱うことが示されている。

#### (2) 教材について

「バスケットボール」は手でボールを扱い、シュートすることによって相手チームと得点を競い合うことを楽しむ運動であり、ボール操作とオフザボールの動きを身に付けさせる学習である。この2つの動きの課題を児童が自ら見だし追究するために、今回はバスケットボールのルールを簡易化した「ハーフバスケット」を行う。ハーフバスケットの教材の特性は、以下の通りである。

- ・ハーフコートで運動を行うことで、ゴール型ゲームにおける局面を「相手をかかわしてフリーになる局面」と「シュートを打つ局面」の2つに限定することで、児童の思考を焦点化することができる。
- ・リスタートという作戦実行のタイミングがはっきりすることで、作戦の有効性が検証しやすい。
- ・攻撃と守備の時間が区切られていることで、児童の意識をどちらかに集中させることができる。
- ・少人数のため、時間的、空間的なゆとりが生まれる。

### 4 児童について

第4学年時に行ったゴール型ゲーム「ポートボール」「サッカー」では、児童がボールに集まってしまうことが多かった。そのため、ボールを持っていない人の動きについて意識して取り組んできた。また、作戦タイムでは、キャプテンを中心に話し合うことができ、全体での共有を基に実践したり、考えを広げたりしながら取り組む児童が多い。しかし、学習わくわくアンケートにおいて約10%の児童は、学習に意欲的に取り組めないと回答している。体育の授業では運動に恐怖感や苦手意識をもっていることが要因であると考えられる。実態に合ったルール設定や、段階表の活用により、「できた」と感じ楽しく学習に取り組めるよう工夫をしていく。

### 5 研究主題に迫る具体的な手だて(わくわくポイント)

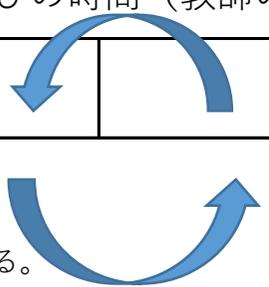
#### (1) 単元のわくわくポイント

ボール運動は、「勝った・負けた」「シュートが入った・入らない」など、結果のみで児童が「できた・できない」を判断しやすい運動であると考えた。そのため、「できた」と「できない」の間にある「できるようになったこと」を可視化する段階表を活用することで、児童が成長への見通しを実感することができると同時に、挑戦する意欲の向上へつなげる。また、段階表で児童の現在地を客観的に伝えることで、児童自身の現在地の把握(自己理解)につなげ、児童が目標(願い)に向かって課題を選択しながら、粘り強く取り組むことができるようにした。

#### (2) 本時のわくわくポイント

「ゴールに入らなくてもリングに当たれば1点」やドリブルなし、アウトナンバーなどのルール設定によって、運動が苦手な児童でも学習に対して見通しをもつことができ、「できそう」「やってみよう」といった挑戦する心を掻き立てることができるようにする。また、教師からの言葉掛けによって、一人一人を価値付け、ポジティブに運動に取り組むことができるようにする。

教科名 体育 単元名 ハーフバスケット 7 時間扱い

|                                      | 教師による提示   | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）  |   | 振り返りの時間  |
|--------------------------------------|---|--|---|--|
|                                      | 見通す   | 選択する   | 見直す   | 振り返る   |
| ね<br>ら<br>い                          | 第1時：学習の流れを確認し、試しのゲームを行う。（最初のルール、段階表、チーム練習、練習方法）<br><br>第2・3時：練習試合を行いながらチームの課題を解決していく。   | 第4・5時：リーグ戦①<br>・3対2でリーグ戦を行う。<br>・チームに合った作戦を考える。<br>・個人の課題をもとにチームの課題を決め、練習方法や作戦を選択する。<br><br>第6時：リーグ戦②<br>・リーグ戦②を行う。※リーグ戦①を基に一部、児童の実態や願いによってルール変更をする場合もある。（人数のみ）<br>・チームの特徴を考えながら、練習方法や作戦を選択する。 |  | 第7時：学習の振り返り<br>・リーグ戦②を行う。<br>・段階表で第1時の自分と現在の自分を比較しながら、自身のできようになったことや学び方について振り返る。   |
| 【<br>評<br>価<br>（<br>方<br>法<br>）<br>】 | 第1時【主②・④（観察）】<br><br>第2時【思・判・表①（発言）】<br>第3時【主①・③（観察）】   | 第4時【知・技①（観察）】<br>第4・5時【知・技②（観察）】<br>第5・6時【思・判・表②（発言・記述）】<br>第6時【思・判・表③（発言・記述）】   |   | 第7時【知・技②・③（観察）】  |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く      | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;">                         単元わくわく：たくさんシュートして得点を取り、ゲームに勝ちたい！                     </div> |  |   |  |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かせることが楽しい。</li> <li>・たくさんゲームができて楽しい。</li> <li>・ルールがシンプルで楽しい。</li> <li>・パスが通りやすくて楽しい。</li> <li>・得点がとりやすくて楽しい。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールにたくさん触ることができる。</li> <li>・課題を選べるので、自分でやっている感じがする。</li> <li>・自分が成長していることが実感できる。</li> <li>・チームに必要とされている感じがする。</li> <li>・作戦をみんなで考えるのが楽しい。</li> </ul>    |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作戦通りにできたときが楽しい。</li> <li>・時間と空間の関係が大事だということが分かった。</li> <li>・上手になる方法がわかった。</li> </ul> |

7 本時の指導（5／7時）【見通す・**選択する**・**見直す**・振り返る】

(1) 本時の目標

- ・パスやシュート、ドリブルなどの基本的なボール操作をすることができるようにする。
- ・自己や仲間が行っていた動き方やボール操作、よい動きについて考えたことを友達に伝えることができるようにする。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |             |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
|------|--|---|-------------|---|---|----|----------|------------------|------|------|--|-----------|----------|----|--------------|-----------|-------------|--|
| 見通す  | ○前時の学習を振り返りながら、個人のめあて、学習の流れを確認し、本時の学習への見通しをもつ。<br><br>めあて：チームに合った作戦を考えながら、楽しくゲームをしよう   | □技能・関わり合いの視点から前回の体育ノートで書かれていたことを紹介する。<br><br>□ICTを活用し、視覚的に分かりやすくする。   |             |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
| 選択する | ○準備運動をする。<br><br>○チームの作戦を確認した後、チームごとの課題に合わせて、練習に取り組む。<br>・鳥かご ・シュート ・ミニゲーム(3人対1人)<br>・パスラリー<br><br>○ゲーム①をする。   | □運動に使う部位をほぐすように伝える。<br>□前時に考えた作戦を全員で確認させる。<br>□チームの課題にあった練習方法をチームごとに選択させる。<br><br>★チームの特徴や課題に合った練習を選ぶことができるようにする。<br>《挑戦》 |             |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
| 見直す  | ○シェアリングをする。<br><br>○チームで作戦を話し合う。<br>・パスを出すところがない。<br>・パスをもっとつなげられるように、みんなでもっと動いてパスができる空間をつくろう。<br>・相手のブロックが気になってシュートが入らない。<br>・パスをもらったら、相手のブロックがくる前に、すぐにシュートすることを意識しよう。  | □困っていることを他チームに知られたくない場合は、上手くいっているチームのよい動きを紹介する。<br>□ゲーム①で負けてしまったチームや勝ち星が少ないチームに積極的に助言する。                                  |             |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
| 選択する | ○ゲーム②・③をする。  | ◇パスやシュート、ドリブルなどの基本的なボール操作ができる。<br>【知・技②】(観察)<br>□周りで見ている児童のよい声掛けを称賛するようにする。   |             |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
| 振り返る | ○整理運動をする。<br>○片付けをする。<br>○振り返りを行う。(チーム→個人→全体)  | ★段階表で成長を実感できるようにする。《挑戦》   |             |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
|      | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パス</td> <td>▲パスが通らない</td> <td>▲高いパス？<br/>▲低いパス？</td> <td>○素早く</td> </tr> <tr> <td>シュート</td> <td></td> <td>○ふわっとシュート</td> <td>○ゴール板を狙う</td> </tr> <tr> <td>動き</td> <td>▲どこに動くかわからない</td> <td>○敵より前に入る。</td> <td>○空いているスペースへ</td> </tr> </tbody> </table> |   | 1           | 2 | 3 | パス | ▲パスが通らない | ▲高いパス？<br>▲低いパス？ | ○素早く | シュート |  | ○ふわっとシュート | ○ゴール板を狙う | 動き | ▲どこに動くかわからない | ○敵より前に入る。 | ○空いているスペースへ | ◇自己や仲間の考えたことを他者に伝え、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだり考えたりしている。【思・判・表③】(観察・体育ノート) |
|      | 1  | 2   | 3           |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
| パス   | ▲パスが通らない   | ▲高いパス？<br>▲低いパス？  | ○素早く        |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
| シュート |  | ○ふわっとシュート   | ○ゴール板を狙う    |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |
| 動き   | ▲どこに動くかわからない   | ○敵より前に入る。   | ○空いているスペースへ |   |   |    |          |                  |      |      |  |           |          |    |              |           |             |  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

## 第5学年図画工作科学習指導案

第 5 学 年            1 組  
指 導 者            田 村 真 弓

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

#### 1 題材名「ビー玉の大ぼうけん」

#### 2 題材の目標と観点別評価規準

##### (1) 目標

高低差を利用したビー玉が転がる仕組みを紙で作ることを考え、友達と協力して作ることを楽しみ、コースの形や色、強度、組み合わせ方を工夫して表す。

##### (2) 観点別評価規準

| 評価の観点       | 知識・技能  | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度                                     |
|-------------|--|---|---|
| 題材の<br>評価規準 | ① コースのしかけによるビー玉の転がり方から、ものの動きやバランスを理解している。            | ① ビー玉の転がり方をもとにしかけを思い付き、作りたいコースのイメージをもちながらどのように表すか考えている。 | ① 力を合わせて楽しく活動する喜びを味わい、コースをつくる学習活動に主体的に取り組もうとしている。 |
|             | ② ビー玉の転がり方を試しながら、紙を折ったりつないだりしてコースのしかけの作り方を工夫して表している。 | ② 作品にふれ、友達のコースの面白さやしかけの工夫を感じ取り、自分の見方や感じ方を深めている。         |   |

#### 3 題材について

##### (1) 学習指導要領との関連

本題材は、学習指導要領の高学年の目標(1)「材料や用具を活用し、表し方などを工夫して創造的に作ったり表したりすることができるようにする。」を主なねらいとし、指導内容表現A(2)イ「工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前年度までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。」ことを主な内容として設定した題材である。

## (2) 教材について

本題材では、段ボールを基底材として使用し、工作用紙、可塑性のある片面段ボールなどを活用しながら様々なコースやしかけを組み合わせ、材料や接着方法の強度を十分に理解し、仕組みに合った扱いをすることが求められる。また、仕組みを試しながら新しい発想をしたり、冒険のテーマに沿って、お花紙や画用紙、折り紙を使用し、付け加えながら想像の世界を広げたり、自分なりの表現を楽しむことができるようにする。作品作りを楽しみながら、友達としかけや形、色のよさを交流するなどの手立てを通して、発想や構想の能力を高めるのにふさわしい題材であると考えている。

グループでの座席、道具や材料を取りに行く動線に他グループの作品や見本のしかけなどを置き、自然と想像を広げ、友達との交流の中で考えを深められるようにする。

また、4年生までに学習している、ハサミ、カッター、ボンド、ホチキスなどの道具の使い方を復習しながら、作りたいものに対してどのような道具を使うのか考えられるようにする。

## 4 児童について

図画工作をはじめ、どの教科においても、意欲的に学習に取り組むことができている。その一方で、作品への着想をもつことができずに困る児童、カッターの使い方に不安をもつ児童、空間把握が難しく立体的な発想を苦手とする児童もいる。本題材は、ビー玉の転がるしくみを組み合わせることで、おのずと作品は立体的になり奥行きが生まれ、また、たくさんの材料を用意することで、失敗を恐れずに何度も試すことができる良さがある。また、グループでの座席、グループでの製作を通して、友達と交流しながら着想を得ることができるのではないかと考えた。そのために教材、教室配置の工夫を行い、児童の興味関心を高めながら学習指導要領の目標達成を目指していく。

## 5 研究主題に迫る具体的な手だて（わくわくポイント）

### (1) 題材のわくわくポイント

「見通す」段階において、高低差を変えた坂道、カーブ、抵抗のある坂道を通るビー玉を見せることで、ビー玉の動きの面白さや様々なしかけを組み合わせたゲームになることを伝え、児童の「やってみたい。」というわくわく感を高め、児童が主体的に問題解決に挑戦していくことができるようにする。

「選択する」段階において、しかけの作り方をマトリックスに整理することで、児童が何度も作り方を振り返ることができ、選択がしやすく、学びへの粘り強さを高めることができるようにする。ワークシートでの振り返りを行い、自身の製作の自己理解を深め、次回への挑戦へとつなげさせる。

「見直す」段階において、ある程度できた作品の相互鑑賞を行い、お互いの発想のよさを認め合ったりアドバイスをし合ったりすることで、認め合う・学び合う集団の中での、学びへの粘り強さや協調性、他者受容の力を高めることができるようにする。

### (2) 本時のわくわくポイント

クロムブックで撮影したビー玉の動きを見せながら、一番気に入っているしかけや装飾、コース全体の特徴についてクロムブックで見やすくし、発表を行う。友達の作品の工夫や良さを知った後に、作品鑑賞を行い、自分の作品とは違うビー玉の転がり方、コースの面白さを味わい、他者受容の力を高めることができるようにする。

教科名

図画工作

単元名

ビー玉の大ぼうけん

9

時間扱い

|          | 教師による提示  | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）   |  | 振り返りの時間                             |
|----------|--|---|--|-------------------------------------|
|          | 見通す  | 選択する  | 見直す  | 振り返る                                |
| ねらい      | 第1・2時：しかけの作り方を学ぶ。ビー玉の面白い転がり方を見つける。   | 第3～5時：冒険のテーマを決める。しかけの組み合わせ、新しいしかけを考えてコースを作る。                                | 第6時：作品の相互鑑賞を行い、お互いの発想のよさを認め合ったりアドバイスをし合ったりする。<br><br>第7・8時：アドバイスから作品を作り変えたり、工夫したりする。 | 第9時：自分の作品のついて発表する。友達の作品のよさや面白さを味わう。 |
| 【評価（方法）】 | 第1・2時<br>【知・技①②(発言)(作品)(記述)】   | 第3～5時<br>【知・技①② (発言)(作品)(記述)】<br>【思・判・表① (発言)(作品)(記述)】<br>【主① (発言)(作品)(記述)】 | 第6～8時<br>【主① (発言)(作品)(記述)】<br>【思・判・表①② (発言)(作品)(記述)】<br>【知・技①②(発言)(作品)(記述)】          | 第9時<br>【思・判・表②(鑑賞)<br>(発言)(作品)(記述)】 |
| 児童のわくわく  | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     題材わくわく：ビー玉が大冒険をする楽しいコースを作りたい！                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビー玉の転がる動きがおもしろい！</li> <li>・しかけをつくることができた！</li> <li>・しかけを組み合わせると楽しいコースを作ることができた！</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品のコースがおもしろい！</li> <li>・自分の作ったコースをおもしろい、楽しいと言ってもらえた！</li> <li>・一緒にアイデアを出し合って協力して作ると楽しい！</li> </ul> |   |  |                                     |

7 本時の指導（9／9時）【見通す・選択する・見直す **振り返る**】

(1) 本時の目標

発表を通して作品の特徴を知り、作品に触れて友達の仕事のよさや面白さを味わう。

(2) 本時の展開

|       | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント                              |     |     |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |
|-------|--|--|-----|-----|-----|-----|----|--|--|--|--|---|--|--|--|--|-------|--|--|--|--|-------|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|
| 見通す   | <p>○前時の学習を振り返る。<br/>○本時の流れについて学びの地図で知る。<br/>○発表の仕方について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて：友達の仕事のよさや面白さを見つけよう。</p> </div>   |  |     |     |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |
| 見直す   | <p>○自分の仕事について発表する。</p> <p>冒険(コース)のテーマ、特徴、お気に入りのしかけ、装飾について話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビー玉の転がる速度が変わったり落とし穴に落ちるしかけのおもしろさを知ってもらいたい。</li> <li>・冒険のテーマから作った装飾を見てほしい。</li> <li>・友達の仕事の特徴をビー玉を転がしてみたい。</li> </ul> <p>○友達の発表を聞いた上でビー玉を転がし、友達の仕事のよさや面白さを味わう。</p> <p>○付箋に感想を書いて作者に渡す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・装飾の工夫で冒険の様子がよくわかった。</li> <li>・しかけの組み合わせで、ビー玉の面白い動きが生まれていた。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>基本</th> <th>応用①</th> <th>応用②</th> <th>応用③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土台</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>柱</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>直線コース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>曲線コース</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>わな</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> |  | 基本  | 応用① | 応用② | 応用③ | 土台 |  |  |  |  | 柱 |  |  |  |  | 直線コース |  |  |  |  | 曲線コース |  |  |  |  | わな |  |  |  |  | <p>□クロムブックを活用し、ビー玉の動き、仕掛けがよく見えるようにする。</p> <p>□発表、感想を伝えるときに、マトリックスを活用し、工夫をわかりやすく示せるようにする。</p> <p>□児童が他の友達の仕事を試しやすいような環境を作る。</p> <p>★友達の仕事のテーマ、特徴、お気に入りの仕掛けをクロムブックの動画発表を見て知り、仕事に触れることで、仕事の良さ面白さを味わい他者受容の力を高めることができるようにする。《他者受容》</p> <p>◇発表を通して仕事の特徴を知り、仕事に触れて友達の仕事のよさや面白さを味わい、自分の見方や感じ方を深めている。</p> <p>【思・判・表②（発言）（記述）】</p> |
|       | 基本   | 応用①  | 応用② | 応用③ |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |
| 土台    |  |  |     |     |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |
| 柱     |  |  |     |     |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |
| 直線コース |  |  |     |     |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |
| 曲線コース |  |  |     |     |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |
| わな    |  |  |     |     |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |
| 振り返る  | <p>○本時の学びの振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達には、自分にはない仕組みの工夫や装飾があった。この後の仕事で生かしていきたいと思った。</li> </ul>  | <p>□友達の仕事を味わい、どのように見方感じ方が変わったか、振り返りを行うことができるようにする。</p> |     |     |     |     |    |  |  |  |  |   |  |  |  |  |       |  |  |  |  |       |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

## 第6学年社会科学学習指導案

第6学年 1組 2組 3組  
指導者 佐藤寛子 菅原海斗 鈴木芳実

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24-28の具現化を目指して～

#### 1 単元名「天皇中心の国づくり」

#### 2 単元の目標と観点別評価規準

##### (1) 目標

大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、世の中の様子、人物の働きや文化遺産に着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめ、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子を捉え、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解できるようにするとともに、学習問題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

##### (2) 観点別評価規準

| 評価の観点       | 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|-------------|---|--|---|
| 単元の<br>評価規準 | ① 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子を理解している。 | ① 聖徳太子が政治を行った頃から聖武天皇が国を治めた頃の世の中の様子、人物の働きや文化遺産に着目して、問いを見いだし、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子について考え、表現している。 | ① 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 |
|             | ② 調べたことを年表や図、文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。   | ② 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。   |   |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本単元は、内容(2)ア(イ)イ(ア)に関する内容について、構成したものである。ここでは、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を手掛かりに、聖徳太子が政治の仕組みなどの大陸文化を積極的に摂取しようとしたこと、中大兄皇子や中臣鎌足によって政治の改革が行われ、天皇中心の新しい国づくりを目指したこと、聖武天皇の発案の下、行基らの協力により天皇を中心とする政治が都だけでなく広く全国に及んだことや、鑑真が仏教の発展に大きな働きをしたことなどが分かるようにして、天皇中心の政治が確立されたことを扱うことが示されている。

#### (2) 教材について

「見通す」段階において、聖徳太子が戦後4回紙幣の肖像画として登場していることを提示し、聖徳太子の業績や活躍した時代に関心をもつことができるようにする。第一時で遣隋使について調べる際には地図帳や教科書に載っている地図を活用し、奈良から隋の都である長安までの道のりの長さを視覚的に捉えられるようにする。時期や時間の経過だけでなく、位置や空間的な広がりという社会的事象の見方・考え方も働かせて追究できるようにする。聖徳太子の業績や当時の国内の様子について調べた後に学習問題をつくり、年表を活用して学習計画を立てる。年表には、大化の改新や藤原京、平城京の設営、国分寺や東大寺が建立されたことなど、本小単元で学習する内容を入れ、子どもが学習計画を立てる中で、「為政者」「外国」「政策」「人々」等の視点に沿って、学習すべき内容を追究できるようにする。

### 4 児童について(学年)

どの教科においても、意欲的に学習に取り組むことができている。昨年度行った hyper-QU 調査では、「子どもたちの主体性のある活動を見守るような委任的な面の比重を高めた対応が効果的」などと今後の方針が示されている。また、学習わくわくアンケートにおいても95%以上の児童が前向きに友達と協力しながら学んでいると回答している。以上を踏まえ、本小単元において、個別最適な学びを実現するために、自由進度学習を取り入れる。その上で児童一人一人の学びの質が保証されるように単元構成等を工夫し、学習指導要領の目標達成を目指していく。

### 5 研究主題に迫る具体的な手だて(わくわくポイント)

#### (1) 単元のわくわくポイント

「見通す」段階において、聖徳太子を調べた後に、「聖徳太子が亡くなった後の世の中は怎么样了のだろう。」と発問することで、児童の多様な予想を引き出し、「本当はどうなっていたのか解決したい」という単元を通したわくわくポイントを設定し、児童が主体的に問題解決に挑戦していくことができるようにする。また「選択する」段階において自由進度学習を取り入れることで、児童が様々な選択を行い、「認め合う・学び合う集団」の中で、学びへの粘り強さや挑戦の力を高めることができるようにする。

#### (2) 本時のわくわくポイント

- 1組：児童の予想を基に、「政策」「外国」「人々」の視点でマトリックスに整理することで、児童が見通しや挑戦する意識をもって取り組むことができるようにする。
- 2組：自由進度学習を取り入れることで学びへの粘り強さや挑戦する力が高まるようにする。
- 3組：学級全体でマトリックスを作成しつつ「為政者が狙っていたことは何か」を発問し、児童同士が議論することで、天皇を中心とした政治が確立されたことを粘り強く考えられるようにする。

教科名

社会

単元名

天皇中心の国づくり

6

時間扱い

|                                      | 教師による提示   | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）  |  | 振り返りの時間   |
|--------------------------------------|---|--|--|---|
|                                      | 見通す   | 選択する   | 見直す  | 振り返る  |
| ね<br>ら<br>い                          | 第1時：聖徳太子の業績について調べ、聖徳太子が天皇中心の国づくりを目指したことを理解する。<br><br>第2時：聖徳太子の死後の政治について予想を話し合うことを通して、学習問題を作り、年表を基に学習計画を立てる。   | 第3～4時：中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇の政治を調べることを通して、天皇中心の国づくりが進められたことを理解する。 | 第5時：中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇の政治について、自分の知りたいことをさらに追究したり調べたことについてまとめたりする。 | 第6時：調べたことをマトリックスに整理し、学習問題について話し合うことを通して天皇を中心とした政治が確立されたことを理解する。 |
|                                      |   | ← 個別最適な学び（自由進度学習） →  |  |   |
| 「<br>評<br>価<br>（<br>方<br>法<br>）<br>」 | 第1時【知・技①（発言）】<br><br>第2時【思・判・表①（発言）】<br><br>【主①（発言）】  | 第3～5時【知・技①（記述・発言）】   |  | 第6時【思・判・表②（発言）】<br><br>【知・技②（記述）】                               |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く      | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;">                     単元わくわく：聖徳太子が亡くなった後、どのような政治が行われたのか知りたい！                 </div>   |  |  |   |
|                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖徳太子が何度も一万円札に登場するのはなぜ？</li> <li>・聖徳太子が亡くなった後の政治はどうなった？</li> <li>・学び方の選択（友達、先生、本、インターネットなど）ができる！</li> <li>・自分の興味関心をより追究できる！</li> <li>・為政者の狙いは何か？</li> <li>・学習問題に対し、「なるほど！」と理解できる！</li> </ul> |  |  |   |

7 本時の指導（1組：2／6時）**見通す**・選択する・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

聖徳太子の死後の政治について、予想を話し合うことを通して、学習問題を作り、年表を基に学習計画を立てる。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|------|--|---|
| 見通す  | <p>○前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖徳太子は冠位十二階など身分に囚われず、能力を重視した政治を行った。</li> <li>・十七条の憲法は、国民主権の要素もあり、日本国憲法に繋がる内容だった。</li> </ul> <p>○聖徳太子の死後の政治について、予想を話し合い、学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰かが聖徳太子の政治を引き継いだと思う。</li> <li>・権力争いが起こってしまって、戦になったのではないか。</li> <li>・誰が権力をもったのか調べてみたい。</li> <li>・どのような政治になったのか調べてみたい。</li> </ul>   | <p>□振り返りを通して、「政策」「外国」「人々」の視点を想起することで、学習計画のマトリックスを児童自身が整理できるようにする。</p> <p>□様々な予想に対し「本当なのか」と発問することで、学習問題へと繋げていく。</p> <p>◇聖徳太子が政治を行った頃から聖武天皇が国を治めた頃の世の中の様子、人物の働きや文化遺産に着目して、問いを見だし、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子について考え、表現している。</p> <p>【思・判・表①（発言）】</p>                  |
|      | <p>学習問題：聖徳太子が亡くなった後、どのような政治が行われていったのだろうか。</p>  |   |
| 選択する | <p>めあて：学習問題を解決するためには、何をどのように調べ、まとめていけばよいのだろうか。</p> <p>○年表を基に予想を整理し、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大化の改新を行った中大兄皇子や中臣鎌足を調べると良いと思う。</li> <li>・聖武天皇の大仏造りも何か大切な意味があるのかもしれない。</li> <li>・外国との関わりや人々の暮らしも聖徳太子の時とは違うような気がするから、調べると良いと思う。</li> <li>・聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇の政治を「政策」「外国」「人々」の視点でマトリックスに整理すると分かりやすいと思う。</li> <li>・聖徳太子の調べ学習を活用して、自由進度学習を進めたい。</li> <li>・教科書だけでなく、本やNHK for school 等も使って調べると良いと思う。</li> </ul> | <p>□年表を活用することで、人物が行ったことに着目した根拠のある予想をもち、学習計画を立てられるようにする。</p> <p>★児童の予想を基に、聖徳太子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇の政治を「政策」「外国」「人々」の視点でマトリックスに整理することで、児童が挑戦する意識をもって取り組むことができるようにする。《挑戦》</p> <p>◇大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>【主①（発言）】</p> |
| 振り返る | <p>○話し合ったことを基に、ワークシート（学習目標など）を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の単元ではクロムブックに偏ってしまったので、今回は本を中心に調べていく。</li> <li>・今の日本だけでなく、前回の単元と比較しながら、学習問題について考えていく。</li> <li>・Yチャートなどの思考ツールを活用し、調べたことを整理しながらノートにまとめていく。</li> </ul>  | <p>□振り返りシートを活用し、前単元までの学習を振り返ることで、調べ方やまとめ方を児童が想起できるようにする。</p>  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

7 本時の指導（2組：4／6時）【見通す・**選択する**・見直す・振り返る】

(1) 本時の目標

中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇の政治を調べることを通して、天皇中心の国づくりが進められたことを理解する。

(2) 本時の展開

|      | ○主な学習活動 ・ 予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |      |            |      |    |  |  |  |    |  |  |  |    |  |  |  |   |
|------|---|---|------|------------|------|----|--|--|--|----|--|--|--|----|--|--|--|---|
| 見通す  | <p>○学習計画やワークシートを確認し、本時の問いを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて1：中大兄皇子や中臣鎌足はどのような政治を行っていたのだろうか。</p> <p>めあて2：聖武天皇はどのような政治を行っていたのだろうか。</p> </div> <p>○めあてに対する予想を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中大兄皇子や中臣鎌足は、聖徳太子の政治を受け継いだのではないか。(調べる予想)</li> <li>聖武天皇は、海外の文化を取り入れようとしたのではないか。(調べる予想)</li> <li>聖武天皇は、天皇中心の国づくりを目指す政治を行ったのではないか。(考える予想)</li> </ul>   | <p>□学習の流れを確認することで、自由進度学習が円滑に進むようにする。</p> <p>□前時の学習で①困ったこと②良かったこと(資料など)③学習問題に対する中間報告を全体で確認することで、児童が本時の学習に対し、見通しをもつことができるようにする。</p> |      |            |      |    |  |  |  |    |  |  |  |    |  |  |  |   |
| 選択する | <p>○めあてに対して調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中大兄皇子や中臣鎌足によって、政治改革が行われた。(大化の改新)</li> <li>聖武天皇によって、大仏作りが行われた。</li> <li>大陸の技術や文化が伝えられた。</li> <li>中には生活苦により逃げ出す人々もいた。</li> </ul> <p>(マトリックス)</p> <table border="1" style="margin: 10px 0;"> <tr> <td></td> <td>聖徳太子</td> <td>中大兄皇子・中臣鎌足</td> <td>聖武天皇</td> </tr> <tr> <td>政策</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外国</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人々</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○めあてに対して考え、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大和朝廷の時と比べて、権力が天皇に集まっており、天皇中心の国づくりを目指した政治を行った。</li> <li>現代と比べて、国民主権ではなく、天皇主権の色が強い政治を行った。</li> <li>天皇中心の国づくりが進んだ一方で、租調庸など人々にとって負担が大きい政治でもあった。</li> </ul> |   | 聖徳太子 | 中大兄皇子・中臣鎌足 | 聖武天皇 | 政策 |  |  |  | 外国 |  |  |  | 人々 |  |  |  | <p>□名前磁石を活用することで、どの問いを追究しているのかを明確にし、児童同士が必要に応じて協働的な学びを展開することができるようにする。</p> <p>□児童の実態に応じて、情報のまとめ方や資料の選択、現代との繋がり等に対し言葉掛けを行う。</p> <p>□マトリックスにまとめる前に調べたことと考えたことを教員が確認することで、学びの質を保証することができるようにする。</p> <p>★児童一人一人に応じた発問を行うことで、児童の粘り強さが高まるようにする。《粘り強さ》</p> <p>◇大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、聖徳太子、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりの様子を理解している。【知・技①(発言)】</p> |
|      | 聖徳太子  | 中大兄皇子・中臣鎌足  | 聖武天皇 |            |      |    |  |  |  |    |  |  |  |    |  |  |  |   |
| 政策   |   |   |      |            |      |    |  |  |  |    |  |  |  |    |  |  |  |   |
| 外国   |   |   |      |            |      |    |  |  |  |    |  |  |  |    |  |  |  |   |
| 人々   |   |   |      |            |      |    |  |  |  |    |  |  |  |    |  |  |  |   |
| 振り返る | <p>○本時の学びの振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本を中心に調べ、聖徳太子の政治と比較しながら、学習を進めることができた。これまでの学習から、天皇に権力を集める政治を目指したと思う。</li> </ul>   | <p>□振り返りシートを活用し、自身の「学習目標」に対して振り返りを行うことができるようにする。</p>  |      |            |      |    |  |  |  |    |  |  |  |    |  |  |  |   |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)

7 本時の指導（3組：6／6時）【見通す・選択する・見直す・**振り返る**】

(1) 本時の目標

調べたことをマトリックスに整理し、学習問題について話し合うことを通して、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解する。

(2) 本時の展開

|  | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応   | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|--|---|---|
| 見通す  | <p>○学習計画やワークシートを確認し、本時のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までに中大兄皇子や聖武天皇などの政治を調べた。</li> <li>・今日はマトリックスを活用して、学習問題について考える時間だ。</li> </ul>  | <p>□学習計画を確認することで、本時のめあてを児童自ら設定できるようにする。</p>   |
| <p>めあて：調べたことをマトリックスに整理すると、学習問題に対してどのようなことが考えられるのだろうか。</p>  |   |   |
| 選択する   | <p>○調べたことを整理したマトリックスを活用し、学習問題に対する考えを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・租調庸の租税制度など、現代にも繋がる天皇中心の国づくりを進める政治が行われた。</li> <li>・建築技術など海外の進んだ文化を積極的に取り入れる政治が行われた。</li> <li>・現代と比べると、租調庸など人々にとって負担が大きい政治であったが、天皇中心の国づくりを進める上では必要だった。</li> <li>・中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇は国としての基盤を作り、権力を天皇に集中させる狙いがあった。</li> </ul> | <p>□児童の発言を基に、黒板上に学級全体でマトリックスを作成しつつ、「為政者が狙っていたことは何か」を発問することで、整理した社会的事象が天皇を中心とした政治が確立されたことに繋がっていることを捉えられるようにする。</p> <p>★為政者の狙いを問う発問を行うことで、児童が粘り強く考えられるようにする。《挑戦・粘り強さ》</p> |
| 見直す  | <p>○天皇中心の国づくりを目指す上で、大きな影響を与えた人物について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々にとって負担は大きかったが、租税制度など現代にも繋がる天皇中心の国づくりを進めた中大兄皇子は現代に大きな影響を与えていると思う。</li> <li>・日本国憲法に繋がる考え方をもちて政治を進めた聖徳太子の影響も大きいと思う。</li> <li>・外国の文化を懸命に伝えた鑑真や人々の救済を行った行基の影響も大きいと思う。</li> </ul>  | <p>□「天皇中心の国づくりに影響を与えた人物は誰か」を問うことで、人物の働きに着目しながら学習問題に対する自分の考えをまとめられるようにする。</p> <p>◇大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子を関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。【思・判・表②（発言）】</p>           |
| 振り返る   | <p>○学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p>   |   |
| <p>まとめ：聖徳太子が行った政治は、中大兄皇子や聖武天皇らによって引き継がれた。鑑真の活躍もあり、中国から文化や政治の仕組みを取り入れたり、仏教の力を利用したりして、天皇中心の国づくりを確かなものにする政治が行われた。</p> |   |   |
|  | <p>○学習目標（単元の学び方）等の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を中心に調べ、今の日本だけでなく、前回の単元と比較しながら、学習問題について考えることができた。次回も継続していきたい。</li> </ul>   | <p>◇調べたことを年表や図、文などにまとめ、天皇を中心とした政治が確立されたことを理解している。</p> <p>【知・技②（記述）】</p> <p>□振り返りシートを活用し、「学習目標」等に対して振り返りを行うことができるようにする。</p>  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。（町田市資料より）

## 第6学年理科学習指導案

第 6 学 年 4 組  
指 導 者 萱 嶋 珠 理

### 研究主題

町田の力  
～町田市教育プラン24－28の具現化を目指して～

1 単元名「電気の利用」※町田市が提案する取組

2 単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

電気の量や働きに着目して、それらを多面的に調べる活動を通して、発電や蓄電、電気の変換についての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

| 評価の観点       | 知識・技能   | 思考・判断・表現  | 主体的に学習に取り組む態度   |
|-------------|---|---|---|
| 単元の<br>評価規準 | ① 電気は、つくりだしたり蓄えたりすることができることを理解している。   | ① 発電や蓄電、電気の変換について、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。             | ① 発電や蓄電、電気の変換についての事物・現象にすすんで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 |
|             | ② 電気は、光、音、熱、運動などに変換することができることを理解している。   | ② 発電や蓄電、電気の変換について、観察、実験などを行い、電気の性質や働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 | ② 発電や蓄電、電気の変換について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。                     |
|             | ③ 身の回りには、電気の性質や働きを利用した道具があることを理解している。   |   |   |
|             | ④ 発電や蓄電、電気の変換について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 |   |   |

### 3 単元について

#### (1) 学習指導要領との関連

本単元は、第5学年「A(3)電流がつくる磁力」の学習を踏まえて、「エネルギー」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「エネルギーの変換と保存」、「エネルギー資源の有効利用」に関わるものであり、中学校第1分野「(3)ア(ア)電流」、「(7)科学技術と人間」の学習につながるものであることが示されている。

#### (2) 教材について

本単元では、単元を通して手回し発電機や電子オルゴールなどを活用していく。導入でISS(国際宇宙ステーション)から見た日本の夜景を提示し、普段当たり前のように使用している照明の良さを話し合い、「照明の源は?」と問うた上で手回し発電機を基に発電を行う。その後、照明以外の電気の使い方を話し合い、生活経験を基にした根拠のある予想を行った上で電子ブザー等を使用していく。さらに電気をコントロールしながら効率的に利用するという観点から、プログラミングによるロボット操作を取り入れる。決めたとおりに動かなかった場合は、プログラムのどこがおかしいのかを考えてプログラムを修正するなど、試行錯誤を伴いながら学習することも期待できる。このことを通し、挑戦する力や粘り強く問題を解決する力を育むことを目指していく。

### 4 児童について

本学級の児童は、自然の事物・現象に対する興味・関心が高く、体験的な活動が多い理科の学習に意欲的に取り組んでいる。予想の場面においては、他教科や日常生活の中で学んだことや気付いたことを生かし、根拠のある予想を立て、実験の計画を立てることが出来ている。しかし、観察・実験の中でうまくいかないときに、試行錯誤することを諦め、すぐ教師に答えを求めようとする児童もいる。そこで、教師がすぐに介入するのではなく、仲間と協力しながら十分に操作する場を用意することで、友達の考えを聞きながら問題解決に取り組むことができるようにしていく。活動を通して生じた、児童の「もっとこんなプログラミングを行った車を走らせたいたい!」という思いを大切にすることで、試行錯誤に励む挑戦心を持ち、粘り強く問題解決できる姿を目指していく。

### 5 研究主題に迫る具体的な手だて(わくわくポイント)

#### (1) 単元のわくわくポイント

本単元では学習班で手回し発電機やコンデンサー等を使って実験していく。共通体験の中で、回し方で発電量が異なったり、豆電球と発光ダイオードでは照明時間に違いがあったりするため、児童が電気を「つくる」「ためる」「使う」ことに興味・関心をもつことが期待できる。また、試行錯誤しながらプログラミングを行い、電気をコントロールしながらより効率的に利用する方法を追究することができるので、児童は粘り強く実験に取り組み、挑戦心をもって問題解決をしていくと考えられる。これらを生かすことで、「電気をより良く使いたい」というわくわくポイントを引き出し、児童の挑戦力や粘り強さが育まれるようにしていく。

#### (2) 本時のわくわくポイント

電気をコントロールしながらより効率的に利用する方法を追究するためにプログラミングロボットを活用する。ICTを活用し、決めたとおりに動かなかった場合は、プログラムのどこがおかしいのかを考えてプログラムを修正するなど、試行錯誤を伴いながら学習することで、児童の粘り強さが高まるようにする。また、担任だけでなく、ゲストティーチャーを活用することで、学びの個別化へと繋げ、挑戦心も育むことができるようにしていく。

教科名

理科

単元名

電気の利用

14

時間扱い

| 教師による提示                         |   | 子どもの学びの時間（教師の支援の時間）  |  | 振り返りの時間   |
|---------------------------------|---|--|--|---|
| 見通す                             |   | 選択する   | 見直す  | 振り返る  |
| ね<br>ら<br>い                     | 第1時：電気をつくる方法について問題を見だし、予想を確かめるための方法を計画する。<br>第4時：コンデンサーにためた電気の使い方について問題を見だし、予想を確かめるための方法を計画する。<br>第7時：豆電球と発光ダイオードの点灯時間の違いについて問題を見だし、回路に流れる電流の大きさとつないだ器具の光り方との関係を調べる実験を行う。<br>第9～10時：電気をコントロールし効率的に利用する仕組みについて問題を見だし、「プログラム」や「プログラミング」とは何かを捉え、プログラミングを体験する。  | 第2時：手回し発電機や光電池で電気をつくることができるかどうかを調べる実験を行う。<br>第5時：電気をためたコンデンサーにいろいろなものを繋いで、電気の変換について調べる実験を通して、電気は光、回転する動き、音などに変えて使うことができることを理解する。 | 第11～13時：ロボットにプログラミングを行うことを通して、つくったりためたりした電気を目的に合わせてコントロールし、効率的に利用することへの理解を深める。 | 第3時：回転運動や光により、電気をつくることができることを理解する。<br>第6時：電気の性質や働きを普段どのように利用しているか予想し、つくったりためたりした電気は、光や音、熱などに変換して利用していることを理解する。<br>第8時：繋ぐ物によって使う電気の量が違うことや目的に合わせて電気をコントロールして利用していることを理解する。<br>第14時：単元を通して学習した内容や自身の学び方を振り返る。 |
|                                 | 第1時【思・判・表①（発言）】<br>第4時【思・判・表①（発言）】<br>第7時【知・技④（観察・記述）】<br>第9～10時【主①（行動観察）】  | 第2時【主①（観察）】<br>第5時【思・判・表②（発言・記述）】<br>第11～13時【主②（観察）】   |  | 第3時【知・技①（記述）】<br>第6時【知・技②（記述）】<br>第8時【知・技③（発言）】<br>第14時【知・技①②③（記述）】   |
| 児<br>童<br>の<br>わ<br>く<br>わ<br>く | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">                     単元わくわく：電気をより良く使いたい！                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手回し発電機で電気をつくるのが楽しい！</li> <li>・電気は照明以外にどのような使い方があるのだろうか？</li> <li>・豆電球はすぐに消えたけれど、発光ダイオードが消えなかったのはなぜだろうか？</li> <li>・身の回りで利用している電気の性質や働きは何だろう？</li> <li>・夜になると自動的に道路標識が光るのはなぜだろうか？</li> <li>・プログラミングをしてロボットを動かすのが楽しい！</li> </ul> |  |  |   |

7 本時の指導（13 / 14時）【見直す・**選択する**・**見直す**・振り返る】

(1) 本時の目標

ロボットにプログラミングを行うことを通して、つくったりためたりした電気を目的に合わせてコントロールし、効率的に利用することへの理解を深める。

(2) 本時の展開

|                  | ○主な学習活動 ・予想される児童の反応  | □指導上の留意点 ◇評価<br>★わくわくポイント   |
|------------------|--|---|
| 見<br>通<br>す      | ○前時の振り返りを行う。<br>・ロボットにプログラミングを行って、動かした。<br>・センサー等を使い、設定した基準に従って、車を走らせたり止めたりした。(自動ブレーキの再現)<br>・さらにプログラミングを行って、ロボットをコントロールして、電気を効率的に利用したい。   | □前時の振り返りを行い、感想を伝え合うことで、「自動運転技術に繋がるプログラミング活動を通して、電気をより効率的に利用したい」という児童のわくわく感を引き出すようにする。   |
|                  | めあて：走る、曲がる、止まるを操作するプログラムを組んで、周囲の危険を避けながら、車を走らせよう。  |   |
| 選<br>択<br>す<br>る | ○自動運転技術に繋がるプログラミング活動を選択し、電気を効率的に利用してロボットをコントロールする。<br>・黒い線で停止し、数秒後に発進を繰り返すプログラミングに挑戦したい。<br>・物体に衝突しないように、回避して走行するプログラミングに挑戦したい。  | ★プログラミングする内容や学び方を選択できる学習環境を整えることで、児童が意欲をもって取り組めるようにする。《挑戦》<br>★ヒントカードや外部人材を活用することで、児童の粘り強さを高めることができるようにする。《粘り強さ》                      |
| 見<br>直<br>す      | ○自動運転技術に繋がる工夫を共有し、再度プログラミングを行い、電気をより効率的に利用して、ロボットをコントロールする。<br>・物体に衝突しないように、回避して走行するプログラミングに警告音を付けてみよう。<br>・黒い線で停止し、数秒後に発進を繰り返すプログラミングにライトが点灯して合図を出す工夫を取り入れてみよう。                 | ★「電気を効率的に利用した自動運転技術には他にどのようなものがあるか」と発問を工夫することで、児童の興味関心を高め、児童の粘り強さが高まるようにする。《粘り強さ》<br>◇発電や蓄電、電気の変換について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。【主②（行動観察）】 |
| 振<br>り<br>返<br>る | ○プログラミングを行って、電気を効率的に利用することの良さについて話し合う。<br>・プログラミングを行うことで、ロボットをコントロールすることができた。<br>・プログラミングを行うことで、効率的に電気を利用することができ、よりよい生活や社会をつくることにつながると思った。<br>・人々の生活を、より豊かにすることができるプログラミングを考えたい。 | □自動運転技術だけでなく、自動販売機等プログラミングを通じた電気の効率的な利用について提示することで、プログラミングを行い、効率的に電気を利用することは、よりよい生活や社会をつくることにつながることを児童が捉えられるようにする。                    |
|                  | まとめ：プログラミングを行い、電気を目的に合わせて変換したり、効率的に利用したりすることは、よりよい生活や社会をつくることにつながる。  |   |
|                  | ○本時の振り返りを行う  | □学び続ける力の6つの要素について振り返りを行うように声掛けをする。  |

※一単位時間において、「選択する」「見直す」については、柔軟に授業構成を行う。(町田市資料より)